

令和7年度事業報告書

社会福祉法人 大野城市社会福祉協議会

令和 7 年度事業報告

★総 括★

〈事務局長 高原 信治〉

現在、利便性が向上している大野城市においても少子高齢者化が進展しており、さらなる複合的な福祉ニーズが急増している一方、地域活動の担い手発掘やこれまで取り組んできた福祉活動の持続性が求められるとともに、地域における新たな生活支援や支え合い活動がこれまで以上に必要とされてきています。また、物価高騰等による影響にて、生活課題が複雑化・多様化する中で、生活困窮世帯や単身高齢者への支援、地域のつながりの再構築を各関係機関や地域と連携しながら地域福祉活動の推進とともに、2025 年度（令和 7 年度）は地域のニーズや課題をもとに作成した第 1 期大野城市地域福祉活動計画の 2 年目として引き続き 7 つの重点事業に取り組んでまいりました。

福祉の啓発においては、小学校を中心にゲストティーチャーをコーディネートした「福祉教育」や、各種団体等を対象におこなっている「ふーちゃんゼミナール」では、社協職員だけでなく、職能団体、福祉団体も講師として講座をとおり学ぶ機会の提供をおこなっており、権利擁護を中心にした終活や相続、成年後見のセミナーも開催し啓発活動に努めてまいりました。特に、マンションと連携した地域づくりを目的に開催しているマンション暮らしのあれこれ講座では、今後の地域福祉活動において地域とマンションの関係作りが必要であると感じることから様々な切り口で取り組みを進めています。

財源の確保が難しいなか、市民や市内の企業による寄付や、他団体からの助成金にて生活に困っている方への食料支援や、社協内の部署間や行政、他の社会福祉法人の福祉専門職等と連携した個別支援の他、在宅福祉事業で活用している車両を利用した外出支援事業や、福祉バスを活用した買い物支援バス運行など新たな取り組みをすすめました。また、新たな人材の発掘を目指して、地域福祉活動やボランティア活動の入り口として、「ボランティアエントリーシステム」でのボランティア活動参加の機会の創出もおこないました。あわせて、ボランティア活動を理解し、ボランティアコーディネーターやボランティアを受け入れる側に必要なボランティアコーディネーション力向上のための 3 級検定も開催いたしました。

また、総合福祉センターの内部改修工事をおこなうことができ、センターの長寿寿命化をすすめながら、使いやすいセンターを目指して整備を進めてまいりますとともに、今後も地域共生社会の実現に向けてより一層職員一同邁進してまいります。

◆重点方針◆

◇総務企画課◇

《健全な法人運営》

社協会員会費は令和 6 年度と比較すると微減し、寄付金については昨年度大口の指定寄付があり、令和 7 年度は大口の寄付がなかったため 600 万円超の減少となっています。

介護サービス関連事業については、令和 6 年度と比較すると約 200 万円赤字額が減少したものの、厳しい経営状況が続いているので引き続き収支の改善に努めてまいります。

《衛生管理体制の推進》

衛生委員会で職員の残業時間を定期的に共有し、極力残業をしない働き方を推奨した結果、令和6年度と比較して残業時間が減少し職員の長時間労働が是正され職員の健康の保持増進に寄与することができました。

《総合福祉センターの利活用》

総合福祉センターの長寿命化にむけた内部改修工事を令和7年11月からおこない、令和8年3月無事に工事を終えることができました。これまで以上に快適にご利用いただけていると思いますが、引き続き安全安心かつ快適に利用できる総合福祉センターをめざしてまいります。

《法人後見事業》

『個人の尊厳を尊重する』を第一に考え、ご利用者様に寄り添った支援をおこなってまいりました。

◇地域課◇

《第1期大野城市地域福祉活動計画》

◇地域課◇

《区長会との懇談会》

移動困難（公民館・買い物等）の声を踏まえ意見交換を実施しました。ハンディキャブは地域貸出での利用がしやすいよう運用を見直し、運転ボランティアの募集・養成で担い手確保を図りました。買い物支援は公民館拠点で段階的に実施し、ニーズ把握と関係機関連携により仕組み構築を進めています。

《福祉教育の推進》

学校の先生や福祉関係者などを対象とした福祉教育基礎研修会を行いました。その後の福祉教育においても当事者やゲストティーチャーとの交流が図られ、学校と地域の一体的な福祉意識の醸成につながりました。

《赤い羽根共同募金運動の推進》

街頭・イベント・団体・学校へ向けて、募金協力の依頼を拡大し、ボランティア団体の新規参画や寄付つき商品の新規契約につながりました。ハンディキャブ地域貸出を利用するつつじヶ丘区での運転ボランティアの取組は、中央共同募金会の取材を受け全国配信予定となりました。募金は目標額を上回り、令和8年度に向けた新たなチャレンジの基盤を構築しました。

◇居宅介護サービス課◇

《経営の改善》

経営改善として支出の見直しについて、介護車両のリースの見直しをおこない、支出の削減をおこないました。引き続き介護サービスの収支改善を目指していきます。

《地域と共に介護を考える》

利用者はもとより介護者の支援に関しても社協内で共有し、必要な機関へとつなぐなど切れ目のない支援を継続しています。また、介護保険や利用方法、介護の方法や認知症の方への対応の仕方などを「ふーちゃんゼミナール」をとおして地域支援や地域共生社会の啓発をおこなっています。

★第１期大野城市地域福祉活動計画(2024 年度～2029 年度)★

- ① 《食の確保隊》
- ② 《ふだんの暮らしのアシストセンター》
- ③ 《社会福祉法人と地域のつながり》
- ④ 《地域福祉へのいざない事業》
- ⑤ 《地域における外出手段を充実させるための事業》
- ⑥ 《大野城市ボランティア・市民活動フロント事業》
- ⑦ 《権利擁護事業に関する取組強化と利用促進》

令和7年度事業報告書



目次

組織図、令和7年度職員体制……………	5
各種委員等の就任状況について…………	7
執行機関 理事会……………	8
議決機関 評議員会……………	8
監査機関 ……………	9
評議員選任・解任委員会……………	9
専門委員会……………	9

総務企画課

1. 理事会・評議員会等……………	10
2. 専門委員会 ……………	11
3. 情報公開 ……………	11
4. 寄附受入事業……………	12
4-2 フードパントリー ……………	13

地域課

5. 社協会員推進事業 ……………	14
6. 第1期大野城市地域福祉活動計画 ……………	14
7. 地域福祉推進事業 ……………	16
8. 社会福祉法人ネットワークの構築	22
9. 大野城市生活支援体制整備事業	23
10. 広報関係……………	25
11. リフトカー運行事業……………	26
12. 福祉バス運行事業……………	27
13. 福祉用具貸出事業 ……………	27
14. ハンディキャブ貸出事業……………	28
15. 高齢者福祉対策事業……………	29
16. 身体障がい者福祉対策事業 ……	30
17. 知的障がい児者福祉対策事業 …	31
18. 子育て支援事業 ……………	31

19. 児童青少年福祉対策事業……………	32
20. 学校における福祉教育 ……………	32
21. 母子父子福祉対策事業 ……………	34
22. 介護者支援事業 ……………	34
23. 大野城市ふくしフェスティバル2025 ……………	35
24. ボランティア活動推進……………	36
25. 被災地支援活動 ……………	42

権利擁護課

26. 総合相談事業 ……………	43
27. 生活福祉資金貸付事業 ……………	45
28. 特例貸付相談支援事業 ……………	46
29. 日常生活自立支援事業 ……………	47
30. 法人後見事業……………	48
31. ライフレスキュー事業 ……………	49
32. 死後事務事業 ……………	49

介護サービス

33. 介護サービス事業 ……………	50
--------------------	----

その他

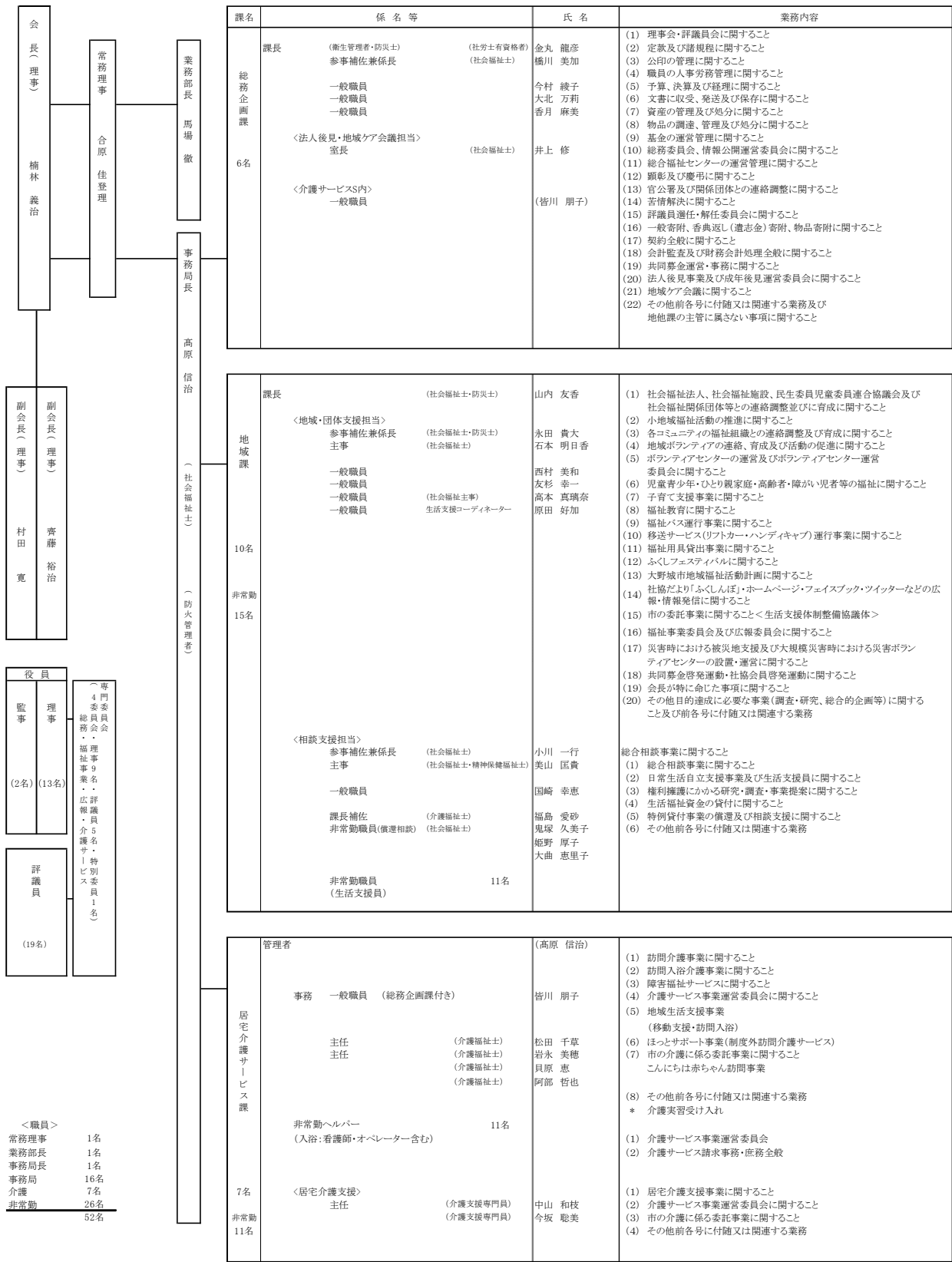
34. 社会福祉援助技術現場実習受入 ……	53
35. 職員の資格（取得）状況 ……………	53
36. 職員内部研修 ……………	54
37. 事業継続計画 ……………	54

参考資料

社会福祉人 福岡県共同募金会 大野城市支会 ……………	55
『2025年度 事業計画』 ……………	59

社会福祉法人大野城市社会福祉協議会 組織図

()は兼務



令和7年度職員体制（令和8年3月31日現在）

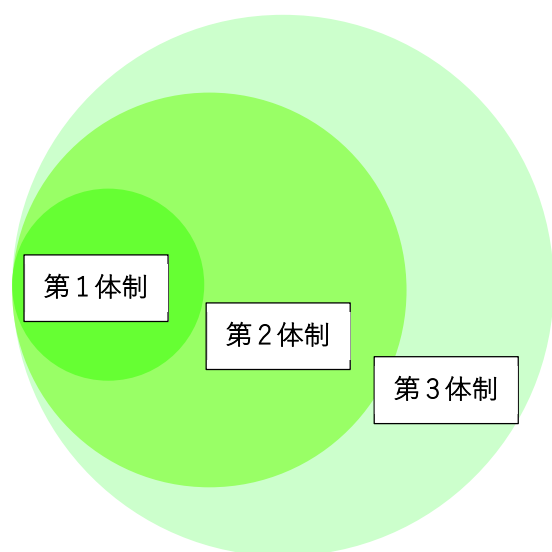
事務局長	1 名	
業務部長	1 名	
総務企画課	7 名	（内、再任用職員 1 名、一般職 3 名）
地域課	25 名	（内、一般職 5 名、非常勤職員 15 名）
居宅介護サービス課	18 名	（内、非常勤 11 名）
総数	52 名	

プロジェクトチーム

課を横断したチームを作り業務を遂行するとともに、職員相互の連携協力により、組織一丸となり、事業・活動を展開。

ボランティアエントリーシステム
第1期大野城市地域福祉活動計画
ふくしフェスティバル(市協働)
権利擁護事業における事業開発の研究：死後事務等
学校における福祉教育

緊急災害時連絡体制



第1体制 (7名)	楠林会長 高原事務局長 金丸課長	合原常務理事 馬場部長 山内課長	井上室長
第2体制 (16名)	楠林会長 高原事務局長 金丸課長	合原常務理事 馬場部長 山内課長	井上室長
	橋川 小川 永田 石本 美山 中山 松田 岩永 皆川		
第3体制 (27名)	楠林会長 高原事務局長 金丸課長	合原常務理事 馬場部長 山内課長	井上室長
	橋川 小川 永田 石本 美山 中山 松田 岩永 皆川		
	今村 大北 香月 国崎 原田 西村 友杉 高本 今坂 貝原 阿部		

令和7年度各種委員等の就任状況について				
職員氏名	機関名・職名・委員名等	推薦母体		依頼元
合原 佳登理	(社福)野の花学園評議員	大野城市社協		野の花学園
"	大野城市シルバー人材センター役員選考会委員	大野城市社協		大野城市シルバー人材センター
"	民生委員推薦会委員	大野城市社協		大野城市
"	社会福祉法人悠生会評議員	大野城市社協		悠生会
"	大野城市シン・コミュニティ構想推進協議会委員	大野城市社協		大野城市コミュニティ文化課 共働推進担当
"	大野城まどかびあ開館30周年記念事業実行委員会委員	大野城市社協		公益財団法人大野城まどかびあ 管理課
"	一般財団法人あすたむ各評議員			(株)ニック
"	こども家庭庁 こどもの貧困対策・ひとり親家庭支援部会委員		全母子協	内閣府
"	一般財団法人全国母子寡婦福祉団体協議会幹事理事		全母子協	一般財団法人 全国母子寡婦福祉団体協議会
"	社会福祉法人福岡県母子寡婦福祉連合会専門委員		福岡県母連	社会福祉法人 福岡県母子寡婦福祉連合会
"	春日市母子寡婦福祉会会長		春日市	春日市母子寡婦福祉会
高原 信治	年金委員	大野城市社協		日本年金機構 南福岡年金事務所
"	・悠生会 入所検討委員会第三者委員 ・苦情処理委員会第三者委員	大野城市社協		悠生会
"	大野城市地域福祉計画推進協議会委員	大野城市社協		大野城市すこやか福祉部 福祉サービス課
"	大野城市コミュニティ活動応援ファンド事業令和7年度 審査会委員	大野城市社協		NPO法人共働法人のまち 大野城
"	NPO法人共働のまち大野城役員選考委員	大野城市社協		NPO法人共働法人のまち 大野城
"	大野城市市民総ぐるみ防災訓練実行委員会委員	大野城市社協		大野城市危機管理部危機管理課
"	(社福) まどか園(慶和会) 評議員	大野城市社協		慶和会
"	大野城市介護保険運営協議会委員	大野城市社協		大野城市介護支援課
"	大野城市地域密着型サービス運営委員会委員	大野城市社協		大野城市介護支援課
"	大野城市地域包括支援センター運営協議会委員	大野城市社協		大野城市介護支援課
馬場 徹	大野城市文化連盟評議員		その他 市文化連盟評議員	大野城市民劇団迷子座
"	もやいネット南委員	大野城市社協		南地区コミュニティ 運営協議会
"	東コミ福祉包括ケアシステム実行委員会委員	大野城市社協		東地区コミュニティ運営協議会
"	北地区地域包括ケアシステム協議会委員	大野城市社協		北地区コミュニティ運営協議会
山内 友香	中央まどかネット委員	大野城市社協		中央地区コミュニティ運営協議会
"	大野城市空き家等対策審議会委員	大野城市社協		大野城市
"	さわやかテラス大野城中央運営推進会議委員	大野城市社協		さわやかテラス大野城
"	大野城市子ども・若者育成会議委員	大野城市社協		大野城市子ども・若者政策課 こども政策担当
"	大野城市子ども・若者育成会議委員 子育て支援部会委員	大野城市社協		大野城市子ども・若者政策課 こども政策担当
"	大野城市民読書活動推進委員会	大野城市社協		コミュニティ文化課
"	シン・コミュニティ構想推進協議会 企業・事業者との共働推進連携会議担当者	大野城市社協		コミュニティ文化課
"	NPO法人共働のまち大野城役員(理事)	大野城市社協		NPO法人共働のまち大野城
井上 修	権利擁護センターばあとなあ 福岡 成年後見人		その他(権利擁護センター ばあとなあ福岡)	社会福祉士会
橋川 美加	大野城市国民保護協議会委員	大野城市社協		大野城市
"	大野城市地域包括ケアネットワーク協議会委員	大野城市社協		大野城市
"	大野城市シルバー人材センター理事	大野城市社協		大野城市シルバー人材センター
永田 貴大	おおの山城 大文字まつり委員会委員	大野城市社協		おおの山城大文字まつり委員会
"	もやいネット南委員	大野城市社協		南地区コミュニティ 運営協議会
"	東コミ福祉包括ケアシステム実行委員会委員	大野城市社協		東地区コミュニティ運営協議会
"	さわやかテラス大野城地域運営推進会議委員	大野城市社協		さわやかテラス大野城
"	ここふるショップ実行委員会委員	大野城市社協		大野城市
"	南地区コミュニティ運営協議会 拡大幹事会委員	大野城市社協		南地区コミュニティ運営協議会
"	社会福祉法人慶和会 地域連携推進会議	大野城市社協		社会福祉法人慶和会
"	大野城市障がい者施設団体連絡協議会運営委員	大野城市社協		大野城市障がい者施設団体連絡協 議会
"	福岡県障がい者就労支援ホームあけぼの園地域連携 推進会議	大野城市社協		福岡県障がい者就労支援ホームあけ ぼの園
"	放置自転車禁止区域の指定に伴う協議	大野城市社協		大野城市都市整備部建設管理課
石本 明日香	シン・コミュニティ構想推進協議会 企業・事業者との共働推進連携会議担当者	大野城市社協		コミュニティ文化課
原田 好加	北地区地域包括ケアシステム協議会委員	大野城市社協		北地区コミュニティ運営協議会
"	中央まどかネット委員	大野城市社協		中央地区コミュニティ運営協議会
松田 千草	大野城市要保護児童対策地域協議会委員	大野城市社協		大野城市子ども家庭センター 母子保健担当
"	大野城市健康食育推進委員会 こども健康部会委員	大野城市社協		大野城市子ども家庭センター
"	福岡県高次脳機能障がい相談支援 体制連携調査委員	大野城市社協		福岡県ホームヘルパー連絡会 福岡県保健医療介護
"	福岡県ホームヘルパー連絡会	大野城市社協		福岡県ホームヘルパー連絡会

大野城市社会福祉協議会組織構成

執行機関 理事会名簿(13名)

(敬称略)

推薦母体	氏 名
大野城市区長会	村 田 寛
大野城市民生委員児童委員連合協議会	齊 藤 裕 治
大野城市シニアクラブ連合会	鬼 塚 春 光
大野城市商工会	花 田 稔 之
筑紫農業協同組合	藤 英 昭
大野城市小中学校校長会	赤 阪 勝
大野城市身体障がい者福祉協会	黒 木 興 士 朗
大野城市福祉委員会	中 野 久 美 子
社会福祉法人 悠生会	福 田 明 希 子
大野城市ボランティア連絡協議会	野 田 和 彦
大野城市食生活改善推進会	川 端 宏 子
識見を有する者	楠 林 義 治
識見を有する者	合 原 佳 登 理

議決機関 評議員会名簿(19名)

(敬称略)

推薦母体	氏 名
大野城市区長会	中 島 邦 秀
大野城市民生委員児童委員連合協議会	笹 川 義 信
大野城市シニアクラブ連合会	萩 尾 幸 紀
大野城市商工会	前 崎 浩 一
大野城市身体障がい者福祉協会	上 野 新 生
大野城市福祉委員会	坪 郷 英 子
大野城市ボランティア連絡協議会	森 敏 江
大野城市食生活改善推進会	円 城 寺 萬 里 子
大野城市役所	安 武 博 樹
大野城市議会	神 田 徳 良
筑紫保護区保護司会大野城支部	谷 口 哲 郎
春日警察署少年補導員連絡会	城 戸 妙 子
大野城市子ども会育成会連絡協議会	橋 口 清 美
大野城市手をつなぐ育成会	赤 井 田 八 千 代
大野城市教育委員会	山 川 周 作
大野城市保育所連盟	岩 見 博 和
精神障がい者施設団体	飯 田 慎 一
大野城市母子寡婦福祉会	田 口 富 恵
筑紫医師会	杉 原 美 登

監査機関(2名)

推薦母体	氏 名	
大野城市商工会	原 一 郎	
識見を有する者	佐 藤 義 廣	(敬称略)

評議員選任・解任委員会 (5名)

区 分	氏 名
外部委員	藤 田 博 久
外部委員	間 か お る
外部委員	金 子 重 紀
社協監事	佐 藤 義 廣
社協事務局職員	山 内 友 香

専門委員会

委員会名	区 分	氏 名
総務委員会	理 事	藤 英 昭
	理 事	野 田 和 彦
	評 議 員	安 武 博 樹
	評 議 員	赤井田 八千代
福祉事業委員会	理 事	赤 阪 勝
	理 事	中 野 久 美 子
	理 事	福 田 明 希 子
	評 議 員	森 敏 江
	特別委員	藤 田 博 久
広報委員会	理 事	花 田 稔 之
	理 事	川 端 宏 子
	評 議 員	笹 川 義 信
	評 議 員	坪 郷 英 子
介護サービス事業運営委員会	理 事	鬼 塚 春 光
	理 事	黒 木 與 士 朗
	評 議 員	円城寺 萬里子

<総務企画課>

1. 理事会・評議員会等

会計(サービス区分)

法人運営費

理事・監事の任期は、令和7年6月24日から令和9年定時評議員会終結時まで。

評議員の任期は、令和7年6月24日から令和11年定時評議員会終結時まで。

1 理事会開催状況 (理事総数 13 名)

開催年月日			議 題		出席者
令和7年	6月6日	第1回	第1号議案から第4号議案	令和6年度社会福祉法人大野城市社会福祉協議会事業報告について 他	9名
	6月24日	第2回	第5号議案から第7号議案	社会福祉法人大野城市社会福祉協議会会長、副会長及び常務理事の選定について 他	11名
	8月18日	第3回	第8号議案	(書面表決) 社会福祉法人大野城市社会福祉協議会評議員候補者の推薦及び評議員選任・解任委員会の開催について	13名
	12月2日	第4回	第9号議案から第12号議案	社会福祉法人大野城市社会福祉協議会処務規程の改正について 他	11名
令和8年	3月12日	第5回	第13号議案から第18号議案	社会福祉法人大野城市社会福祉協議会令和8年度事業計画書(案)について 他	12名

正副会長会の開催 (令和7年5月28日、11月18日) 理事会・評議員会の議案の事前審議

2 監事会の開催状況

開催年月日		監 査 内 容	出席者
令和7年	5月8日	令和6年度 業務・会計監査	2名
	11月11日	令和7年度 業務・会計中間監査	2名

③ 評議員会開催状況（評議員総数 18名）

開催年月日			議 題		出席者
令和7年	6月23日	第1回	第1号議案から第3号議案	社会福祉法人大野城市社会福祉協議会事業報告書について 他	14名
	6月27日	第2回	報告事項	社会福祉法人大野城市社会福祉協議会の概要について 他	13名
	12月18日	第3回	第4号議案	令和7年度「赤い羽根・物価高騰下のいのちをつなぐ支え合いキャンペーン」について	13名
令和8年	3月27日	第4回	第5号議案 第6号議案	社会福祉法人大野城市社会福祉協議会令和8年度事業計画書（案）について 他	18名

2. 専門委員会

法人運営費

① 専門委員会開催状況

委員会名	開催年月日	議 題
合同専門委員会	令和7年6月27日	委嘱状交付 社会福祉法人大野城市社会福祉協議会専門委員会設置規程について 各委員会委員長・副委員長の選任 他

委員会名	開催年月日	議 題
広報委員会	令和7年4月7日	社協だより 200号 2025.5.15について
	7月24日	社協だより 201号 2025.9.15について
	8月4日	社協だより 201号 2025.9.15について
総務委員会	令和7年11月6日	社会福祉法人大野城市社会福祉協議会処務規程の改正について

3. 情報公開

法人運営費

市民の福祉活動への理解と信頼及び積極的な参加を促すことを目的に、社協だよりやホームページ、財務諸表等電子開示システム等にて情報を公開していく。

4. 寄附受入事業

法人運営費

寄附金は在宅高齢者・障がい者の方への支援事業やボランティアセンター運営事業など社会福祉協議会が行なう民間社会福祉事業に活用されている。

※寄附種別

一般寄附 …… 個人、団体の善意による寄附
 香典返し寄附 …… 故人並びにご遺族のご遺志による寄附
 指定寄附 …… 指定した事業に充てられる寄附
 物品寄附 …… 車いす、紙オムツなど物品による寄附

◇寄附受入事業実績

寄附種別	件 数	寄附内容
一 般 寄 附	53 件	1,670,003 円
香 典 返 し 寄 附	7 件	786,546 円
指 定 寄 附	0 件	0 円
(合 計)	60 件	2,456,549 円
物 品 寄 附	122 件	福祉用品 ・紙おむつ・パット 23 件 ・ポータブルトイレ 3 台 ・杖 1 本 ・車いす 1 台 ・シャワーチェア 3 台 ・スロープ 1 台 ・オストメイト用品 1 件 ・防水シーツ 1 件 ・浴槽手すり 1 件 ・浴槽台 1 件 ・移動サポートリフト用スリングシート 1 件 その他 ・食料品 29 件 ・衣類 7 件 ・生活雑貨 12 件 ・食料品 36 件 ・衣類 10 件 ・生活雑貨 15 件 ・文房具 5 件 ・生理用品 1 件 ・血圧計 1 件 ・スチームクリーナー 1 件 ・お米券 3 件 ・ランドセル 4 件 ・テーブルチェア 1 件 ・サイドテーブル 1 件 ・ベルマーク 1 件 ・ペットボトルキャップ 4 件 ・古切手 1 件 ・切手・ハガキ・アルミプルタブ・外貨紙幣 は換金換金し、一般寄附へ

一税控除の適応について―社会福祉協議会へのご寄附は特定寄附金です。寄附領収証を提示してください。＞

個人寄附者

寄附金控除額 = $\frac{\text{1月～12月まで 特定寄付金 総所得の40\%相当額}}{\text{どちらか 少ない額}}$ - 2,000円

企業寄附者 全額損金算入限度額 = $\frac{\text{1月～12月まで (資本金の0.25\%) + (所得の金額の5\%) \div 2}}{\text{}}$

★但し、税制改正により変更になることがあります。

4-2. フードパントリー

市内の企業等や個人から寄贈いただいた食料を活用し、夏休みに合わせ『ふーちゃんパントリー』を4回実施した。パントリー開催期間中、多くの市民の方に食料品の協力もいただき、支援の輪も広がった。

ふーちゃんパントリー第13弾は株式会社 セブン・イレブン・ジャパン様と、株式会社彩食工房様、NPO 法人いるか様からの物品寄附を受け開催。また、6月6日より行っていたフードドライブでご提供いただいた食料品をふーちゃんパントリー第14弾として開催。「ありがたい、年金では苦しい。」など切実な声や、「食料など「衣食住」に関わるもの、本当に助かります」「夏休み前にとっても助かります」と品物を手にされた方から感謝の声もいただいた。



7月10日より7月11日まで開催



7月22日に開催



8月18日より8月22日まで開催

〈寄付された品〉		
パスタ、パスタソース グラノーラ、他食品	パスタ、缶詰、レトルト食品 お米、お菓子等	パスタ、パスタソース

アンケート回答数：54件

参加世帯数：42世帯

アンケート回答数：69件

フードドライブ×ふーちゃんパントリー～ごはんを食べて元気になろう～（第16弾）

赤い羽根物価高騰下のいのちをつなぐ支え合いキャンペーン」の助成を受け、令和7年12月19日（金）・20日（土）に「フードドライブ×ふーちゃんパントリー～ごはんを食べて元気になろう～（第16弾）」を実施。また、開催にあたり、令和7年11月23日（日）～12月15日（月）までの期間でフードドライブを実施したところ、多くの市民から温かいご寄附をいただいた。物価高騰が続く中、市民のご協力により、多くの家庭へ食の支援を届けることができた。

寄付された品：パスタ、缶詰、レトルト食品、お米、お菓子等

参加世帯：38世帯



<地域・団体支援担当>

5. 社協会員推進事業

法人運営費

日ごろの福祉や、もしもの時の安心につながる地域福祉の取り組みに賛同頂き、必要な財源を支えてくださる方を社協会員として、行政・区長・隣組長さんや福祉団体や事業所の協力のもと、啓発・推進を進めている。集まった社協会員の一部は、市内行政区に地域福祉活動費として社協会員会費を、共同募金配分金とあわせて交付を行う。毎年、チラシ兼申込書の訴求性を上げることと、加入しやすさをはかるために、作り変えを行っている。



令和7年度合計		
件数	口数	金額
1,987 件	22,563 口	11,211,537 円
(前年度比)		
18.9%	97.6%	97%

6. 第1期大野城市地域福祉活動計画

法人運営費

令和6年に作成した「第1期大野城市地域福祉活動計画」は2年目を迎え、令和6年の各事業の進捗状況の確認を行うとともに、2年目となる各事業の進め方や目指す方向性を、今年度も大野城市地域福祉活動計画評価委員会にも諮り、各委員より7つの事業の進め方に対する意見を伺う。

◇大野城市地域福祉活動計画評価委員会… 2回開催

開催年月日			議 題	出席者
令和7年	5月12日	第1回	★令和6年度各事業の報告と 令和7年度各事業の取り組み方針	10名
	11月19日	第2回	令和7年度上半期の各事業の報告	10名

1 第1期計画における重点事業

- ① 食の確保隊
- ② ふだんのくらしアシストセンター（総合相談窓口）
- ③ 社会福祉法人と地域とのつながり
- ④ 地域福祉へのいざない事業
- ⑤ 地域における外出手段を充実するための事業
- ⑥ 大野城市ボランティア・市民活動フロント事業
- ⑦ 権利擁護事業に関する取り組み強化と利用促進



① 食の確保隊

評価数値算定方法	評価数値目標	半期ごと評価数値	
アウトリーチし直接支援した件数① 地域活動につながった件数②	60% [②/①]	9月 0%	3月 50%

② ふだんのくらしアシストセンター（総合相談窓口）

評価数値算定方法	評価数値目標	半期ごと評価数値	
アンケートにてアシストセンター相談 窓口を知っている人① アンケート総数②	60% [算式①/②]	9月 —	3月 50%

③ 社会福祉法人と地域とのつながり

評価数値算定方法	評価数値目標	半期ごと評価数値	
仕組みの完成を100とし、進捗状況で評価する。	100%	9月 20%	3月 40%

④ 地域福祉へのいざない事業

評価数値算定方法	評価数値目標	半期ごと評価数値	
学び合う場への参加者数① 地域活動の参加者② [②/①]	80%	9月 ① 241人 ② 127人 52.6%	3月 ① 346人 ② 249人 ③ 71%

⑤ 地域における外出手段を充実するための事業

評価数値算定方法	評価数値目標	半期ごと評価数値	
月次管理表にて増加件数(累計)確認	30件	9月 93件	3月 172件
利用者アンケート① アンケート高評価② [②/①]	90%	—	100%

⑥ 大野城市ボランティア・市民活動フロント事業

評価数値算定方法	評価数値目標	半期ごと評価数値	
ボランティア受付け者数① 活動につながった件数②	100% [算式②/①]=③	9月 100%	3月 100%
ボランティアアンケート総数④ やりがいを感じる件数⑤	100% [算式⑤/④]=⑥	—	100%

⑦ 権利擁護事業に関する取り組み強化と利用促進

評価数値算定方法	評価数値目標	半期ごと評価数値	
アンケート総数① 権利擁護を知っている② [②/①]	60%	9月 90%	3月 64.2%
気軽に相談できるところを知っている③ [③/②]	100%	90%	100%

7. 地域福祉推進事業

法人運営費

共募／福祉育成・
援助活動事業

令和7年度実績

1 福祉委員会活動事業(第22期)

昭和59年から、市内の各区に社協会長が委嘱した福祉委員（1名以上）を配置して福祉委員会を組織している。（平成19年から市長の委嘱も加わる）

定例会の開催

日程		内 容
令和7年 6月11日	第1回	・委嘱状交付 ・福祉委員会の説明及び年間スケジュール ・社協理事・評議員の選出
令和7年 8月27日	第2回	・全員研修 「地域課題お悩み共有 ～楽しく話す&考える★みんなのアイデアカフェ～」 講師 松尾やよい氏（motto ひょうご事務局次長）
令和7年12月10日	第3回	・視察研修 福岡市認知症フレンドリーセンター
令和8年 2月 9日	第4回	・情報交換会 「こどもから高齢者までが、“顔の見える”関係でつながる地域づくり～今取り組んでいること、これから無理なくできそうなこと～」 ・「外出支援の取り組みの経過報告」

2 福祉育成援助活動

28区の行政区に地域福祉活動費として共同募金配分金を交付。

3 地域ケア会議

目 的：高齢者の状況を中心に市（基幹型地域包括支援センター）、地域、民生委員、福祉委員、各地区地域包括支援センター、社協がさまざまな情報を共有し、地域での見守り活動や支援活動を推進することを目的に開催されている。

社協のサービス利用者情報一覧を会議時に配付し、会議参加者での情報共有を行った。また、社協が作成した会議録を、希望する各区長にも配付している。

4 各区の地域福祉推進委員会との協議

各地域で定例的に開催されている地域福祉推進委員会（福祉部会）の会議等に、社協職員はコミュニティワーカーとして各地域の福祉活動を支援している。

会議の進め方は地域の主体性に委ねるところが多いが、ほとんどの地域で社協からの情報提供の時間が用意され、福祉委員からも推進委員へ社協の状況を伝える区が増えた。

5 各地区コミュニティ運営協議会福祉部会の開催状況

定例的に開催される会議に、社協職員はコミュニティワーカーとして地域福祉活動を支援している。

(開催回数 25 回)

各地区福祉部会	定例会 開催回数	主な活動
南地区コミュニティ運営協議会福祉部会	10 回	・南地区コミュニティ福祉部交流のつどい ・部員研修 ・南地区コミュニティ番茶の会 ・いきいき健康教室 ・まつり南風
中央地区コミュニティ運営協議会福祉部会	4 回	・令和 6 年度事業計画等について ・福祉推進委員の集い - 各区の昨年度活動報告および令和 7 年度事業の事業報告、認知症サポーター講習 ・令和 6 年度のふれあいの会（軽スポーツと会食などを通じた高齢者の交流会）について
東地区コミュニティ運営協議会福祉部会	5 回	・各区福祉部活動情報交換 ・東地区コミュニティ番茶の会（各区開催） ・区長を囲んで意見交換会
北地区コミュニティ運営協議会福祉部会	6 回	・北地区福祉推進委員合同研修会 ・福祉レクリエーション ・子どもの福祉等に関する研修会 ・北地区 MADOKA れくスポ祭（車いす体験・五目お手玉ハンディキャブ紹介） ・北地区楽しく語ろう、番茶の会

6 民生委員・児童委員連合協議会活動との協働

◇大野城市民生委員・児童委員連合協議会専門部会の研修において「ふーちゃんゼミナール」を活用して頂き、制度や事業について知識を深める時間を共有することができた。

◇地域ケア会議などで見守りが必要な方々の情報の共有、連携をしている。

◇民生委員・児童委員は、民生委員法及び児童福祉法に基づき要援護者の見守り等、各区の福祉委員とともに地域福祉のキーパーソンとして活動がなされている。

社協の心配ごと相談（無料法律相談）、生活福祉資金貸付、学校における福祉教育などを協働しおこなっている。

7 ふーちゃんゼミナール

社協職員が講師またはコーディネーターとなり、地域福祉や在宅福祉、障がい者福祉などをテーマにした出前講座「ふーちゃんゼミナール」を行っている。利用申込先と打ち合わせを重ねながら、希望に沿った内容を作っていた。

ふーちゃんゼミナール開催状況

	開催日	内容	受講団体名	参加者数	担当職員・協力団体
1	4月23日	向こう三軒両隣ってなに？ 認知症について	平野台区福祉部	25名	馬場・中山
2	5月11日	介護保険について	ライフタウン下大利住宅管理組合	20名	今坂・山内
3	5月16日	コミュニケーションマージャン	若草区福祉推進委員会	30名	馬場、 友杉、西村
4	5月27日	ボランティアグループについて ※公開講座	とっ・とー・たい	6名	石本・原田
5	6月20日	コミュニケーションマージャン	南ヶ丘1区シニアクラブ	15名	馬場、 友杉、高本
6	6月21日	コミュニケーションマージャン	中区シニアクラブ	40名	永田・友杉
7	6月24日	コミュニケーションマージャン ※公開講座	とっ・とー・たい	6名	山内、 友杉、高本
8	6月25日	障がいってどんなこと？	共働のまち大野城	10名	キャラバン隊 まどか、石本
9	6月27日	地域福祉活動とは？	仲島区地域福祉推進委員会	12名	原田
10	7月15日	認知症について	乙金台シニアクラブ	8名	中山、高本
11	7月16日	成年後見制度について	北地区民生委員児童委員連合協議会	21名	井上、山内
12	7月22日	薬の正しい飲み方 ※公開講座	とっ・とー・たい	6名	筑紫薬剤師会、山内
13	7月26日	コミュニケーションマージャン	仲島区シニアクラブ	28名	山内、友杉
14	8月22日	LINEの使い方講座	シニアクラブつつじ会	30名	石本、高本
15	8月23日	向こう三軒両隣ってなに？	仲島区シニアクラブ	28名	山内、原田
16	8月29日	コミュニケーションマージャン	南ヶ丘1区シニアクラブ	15名	友杉、高本
17	9月9日	薬について	乙金台シニアクラブ	20名	筑紫薬剤師会、山内
18	9月10日	赤い羽根共同募金について	大野城市子ども会育成会連絡協議会	25名	山内

19	11月11日	介護サポート体験	下大利団地福祉推進委員会	13名	アップルハート、原田
20	11月21日	コミュニケーションマージャン	南ヶ丘1区シニアクラブ	15名	高本
21	1月27日	感染予防	乙金台シニアクラブ	20名	今坂、石本
22	1月30日	コミュニケーションマージャン	南ヶ丘1区シニアクラブ	15名	友杉
23	2月10日	薬について	仲島シニアクラブ	28名	筑紫薬剤師会、山内
24	2月19日	LINEの使い方講座	畑詰区	20名	石本、高本、山内
25	3月7日	生活福祉資金貸付制度	中区福祉部	30名	美山、馬場、井上
26	3月18日	薬について	乙金台シニアクラブ	30名	筑紫薬剤師会、山内
27	3月18日	社会福祉協議会について	中央地区民生委員児童委員連合協議会	20名	永田
28	3月19日	LINEの使い方	シニアクラブつつじ会	25名	石本、高本
29	3月22日	社会福祉協議会について	大野城市区長会	30名	馬場、永田

8 法外援護対策

大雨や台風接近時、公民館に避難される方のために業者から借入れした組布団を搬入するなどの法外援護対策をおこなっている。令和7年度は自然災害による避難所開設はなかった。

また、火災発生後、大野城市と速やかに情報共有を行い、被害状況に応じた支援を実施した。

令和7年度実績

火災お見舞い

5月15日（木）市内在住者宅火災 1件

8月23日（土）市内在住者宅火災 1件

10月3日（金）市内在住者宅火災 1件

9 レクリエーション道具貸出状況

各区で行われているミニデイや、各団体のレクリエーション等での仲間づくりを目的に、コミュニケーションマージャン（2セット）を貸出している。

また、令和7年度から健康カルタ（2セット）の貸出しも開始した。

コミュニケーションマージャン 貸出地区・団体	健康カルタ 貸出地区・団体
5カ所	7カ所

10 (仮称) 認知症地域見守り訓練

大がかりな声かけ訓練の実施はなかったが、ふーちゃんゼミナールで認知症をテーマにした講座は複数回利用があり、依然として認知症に対する市民の関心は高い状況にある。今後も認知症について正しく理解してもらえるよう啓発を行っていく。

11 区長と社協の懇談会

わがまち大野城市の地域共生社会をめざして、伴に地域福祉を推進することを目的に、区長と社協の懇談会をコミュニティごとに開催した。また4地区コミュニティの意見を集約した報告書と概要版を作成し、11月の区長会で各区長に報告した。

【開催日】	南区コミュニティ	7/3(木)
	中央区コミュニティ	8/21(木)
	東区コミュニティ	8/8(金)
	北区コミュニティ	8/7(木)
【意見交換テーマ】	移動が困難な方への支援状況について	

12 大野城市民総ぐるみ防災訓練

市内小中学校、各公民館、各コミュニティセンターで開催され、社協は福祉避難所への職員派遣及び、災害ボランティアセンター設置訓練をおこなった。

令和7年11月29日(土) 9:00~12:00

- ①東コミュニティセンター 介護専門職員を派遣し、要配慮者を受け入れる訓練をおこなう
今坂、皆川
- ②市役所西駐車場 災害ボランティアセンター設置訓練(デジタル活用)
高原局長、金丸課長、井上室長、山内課長、橋川係長、小川係長
永田係長、石本主事、美山主事 (福祉サービス課：前田係長)

13 マンションと連携した地域づくり

マンション管理士による、マンション管理に関する個別相談会を開催したほか、イベント内で相談コーナーの設置にご協力いただいた。

(1) 福祉と防災に関する包括的連携協定締結

大野城市社会福祉協議会と一般社団法人福岡県マンション管理士会は、福祉視点の導入による居住者の生活向上と地域・居住者間のつながり構築を目的に「包括的連携協定」を締結した。

締結日：令和7年9月22日

(2) 情報交換会

マンション政策や住民支援、見守り・福祉活動、災害時の支援体制などについて意見交換を行い、行政もオブザーバーとして参加した。

開催日 第6回：令和7年 7月 7日（総合福祉センター2階中会議室）
第7回：令和7年 8月 29日（総合福祉センター3階小会議室）
第8回：令和7年 11月 21日（総合福祉センター2階中会議室）
第9回：令和8年 2月 4日（市役所 511 会議室）

(3) 大野城ふくしフェスティバル マンション暮らしの相談コーナー

マンション管理士による講座の実施や個別相談会の開催、イベント内での相談コーナー設置を行った。

開催日：令和7年 11月 23日
会場：大野城まどかぴあ内
協力：（一社）福岡県マンション管理士会
内容：『マンション管理セミナー&個別相談会 in 福岡市』案内チラシ配布など
相談件数：3件

(4) マンション暮らしのあれこれ講座

社協と一般社団法人福岡県マンション管理士会と締結した包括的連携協定に基づき、マンションの管理・防災・福祉を多角的に学ぶ連続講座「令和7年度 マンション暮らしのあれこれ講座」（全3回）を開催した。

第1回

開催日：令和8年 1月 18日
会場：JRE 天神クリスタルビル Bホール
内容：①福岡市内のマンション管理に関する支援施策について（講師：福岡市）
②福岡県内のマンション管理に関する支援施策について（講師：福岡県）
③マンション管理セミナー「区分所有法の改正に伴う管理規約の改定について」
講師：（一社）福岡県マンション管理士会 理事 佐藤 公嗣 氏
参加人数：100名

第2回

開催日：令和8年 2月 15日
会場：大野城市中央コミュニティセンター
内容：マンション防災セミナーin 大野城「地域の防災活動との連携や災害時の支え合いについて」
講師：（一社）福岡県マンション管理士会 理事長 藤野 雅子 氏
情報提供：大野城市危機管理課
参加人数：37名

第3回

開催日：令和8年 3月 15日
会場：大野城心のふるさと館
内容：マンション福祉セミナーin 大野城「マンションにおける高齢者対応や、見守り・共助の仕組みづくり」
講師：（一社）福岡県マンション管理士会 理事 松井 宏行 氏
参加人数：33名

8. 社会福祉法人のネットワークの構築

法人運営費

平成30年7月に社会福祉法人連絡会が設立され、それぞれの分野を活かした相互の連携・協働の取り組みを進めている。令和7年度より、事務局を福岡県障がい者就労支援ホームあけぼの園と大野城市社会福祉協議会で共同運営とした。

日程	内 容
令和7年 7月30日	総会 ・令和6年度事業報告・収支決算報告について ・令和7年度事業計画（案）・収支予算（案）について ・役員改選について ・新規加入の促進について
令和7年 9月 9日	実務者会議 ・「よりそい大野城」について
令和7年10月28日	実務者会議 （1）「よりそい大野城」の推進について （2）事業所間交流・連携活動「よりそい隊（仮称）」について （3）事務局のアドバイザー設置について連絡事項 （4）訪問型サービスD（移動支援）事業について
令和8年1月7日～28日	「よりそい大野城」について周知 ・民協幹事会 ・各地区民協定例会（4地区） ・区長会幹事会 ・区長会（28区） ・4地区コミュニティ運営協議会連絡会（4地区）
令和8年 3月 3日	・かりんとうの意向調査の実施
令和8年 3月 5日	・大野城市訪問型サービスD事業への協力の意向調査の実施

令和7年度実績

内容	相談日	対応	相談件数
よりそい大野城	令和8年2月18日（下大利団地区）	みぎわ工房、社協	1件

9. 大野城市生活支援体制整備事業(市受託事業)

生活支援
体制整備事業

1 大野城市生活支援体制整備第1層協議体(もやいネット大野城)の開催

◆もやいネット大野城(市全域 第1層協議体)/4回開催

令和7年度は情報発信の課題整理から検討を開始し、第2層協議体の意見集約を経て、拡大版会議において買い物支援・ベンチ設置・居場所づくりなどの地域課題を具体的に議論した。さらに、第4回では市への提案や令和8年度に向けた方向性を整理し、現場の声を施策につなげる1年となった。

委員：15名

学識経験者、区長会、民生委員児童委員連合協議会、福祉委員会、筑紫医師会、シニアクラブ連合会、社会福祉法人、福祉事業所、ボランティア連絡協議会、シルバー人材センター、企業、各第2層協議体委員



第3回もやいネット大野城(拡大版)の様子

2 第2層協議体の状況

◆もやいネット南(南地区第2層協議体)/3回開催

詐欺被害防止カレンダーの作成・配布やミニベンチ設置要望の第1層協議体への提案、LINEやスマホ講座などの情報発信・デジタル支援、ふれあい号のルート変更による利用しにくさの解消など、生活環境に関する課題を中心に、各区の実情に合わせた支援を行いながら生活に密着した。地域課題を具体的に協議し、日常の気づきを市全体の取り組みにつなげていく実践的な協議を行った。

委員：28名

南コミュニティ運営協議会会長、副会長(各区長)、民生委員、南コミュニティ運営協議会福祉部、NPO事業部班長、南地区シニアクラブ世話役、南コミュニティ運営協議事務局長・総務、南地区地域包括支援センター管理者・生活支援コーディネーター(以下：SC)、基幹型地域包括支援センター、社協

◆中央まどかネット(中央地区第2層協議体)/5回開催

公民館カフェを中心にグループワークや意見交換を重ね、各区の取り組みやアクションを共有しながら、誰でも集える居場所の継続や多世代交流、運営の負担軽減に向けた検討を進めた。

さらに、『五福の家』視察研修を通して先進事例を学び、集合住宅における見守り課題を整理し、令和8年度の中央まどかネットでの課題抽出につなげるなど、地域の実情に応じた協議を行った。

委員：22名

中央コミュニティ運営協議会会長・副会長、各区長、各区の福祉推進委員会代表(各1~2名)、中央コミュニティ事務局長、基幹型地域包括支援センターSC、中央地区地域包括支援センターSC、社協

◆東コミ福祉包括ケアシステム実行委員会（東地区第2層協議体） / 5回開催

東地区は、SOS 検索ネット訓練を中心に、防災と福祉の連携や在宅向けの買い物支援の実施、実践的な机上訓練を通して地域の支援体制づくりを進めており、防災・見守り・生活支援を組み合わせた実行型の取り組みを推進している。

委員：23名

東コミュニティ運営協議会委員長、副委員長、民生委員・児童委員、福祉部長、東地区地域行政センター、東地区パートナーシップ活動支援センター、東コミュニティ運営協議会事務局、すこやか長寿課、東地区地域包括支援センター、社協

◆北地区地域包括ケアシステム協議会（北地区第2層協議体） / 6回開催

認知症理解の推進をはじめ、見守り・移動・居場所など幅広い課題を構成員の意見から丁寧に整理し、北コミ通信などによる情報発信を継続しながら協議を進めており、課題整理と継続的な協議を重視した基盤づくり型の取り組みが特徴である。

委員：27名

北コミュニティ運営協議会会長、北コミュニティ運営協議会副会長、事務局長、コミュニティ福祉部（部会長部会長）、コミュニティ福祉部会（各区福祉委員、各区民生委員、児童委員代表）北地区民生委員児童委員協議会会長、行政センター係長、北地区地域包括支援センター管理者、北地区地域包括支援センターSC、社協

③ 生活支援コーディネーター連絡会の開催

開催回数：12回（原則、毎月第3水曜日開催）

地域の社会資源調査及び整理を行い、第2層協議体の進捗情報共有や、社会資源の情報共有や各コミュニティの福祉活動に関する情報交換を行っている。

出席者：すこやか長寿課事業担当者

基幹型地域包括支援センターSC(2名)

各地区地域包括支援センターSC(4名)社協SC

10. 広報関係

共募／福祉育成・
援助活動事業

市内を中心とした幅広い福祉情報を掲載した「社協だより（ふくしんぼ）」を年3回発行。市民はもとより、事業所からも「ふくしんぼを見ました」との声を読者アンケートにより多数いただいている。また、データ版（PDF）を社協ホームページに公開し、ボランティア団体「朗読の会文鳥」の協力により、視覚障がいのある方にも音声を通して情報をお届けしている。また、「点訳サークルあゆみの会」の協力により点字版を希望される方へお届けしている。

令和7年度実績

1 「社協だより」の発行（毎号48,500部発行）

主 旨： 広く地域の福祉情報を収集発信し、読みやすく、親しみやすい紙面づくりに努めている。

発行号： 200号(令和7年5月15日)・201号(令和7年9月15日)・202号(令和8年3月15日)



2 ホームページ等による情報発信

社協活動、全社協 被災地支援・災害ボランティア情報をもとに被災地支援情報等を随時更新し、発信をしている。

3 SNSを活用した情報発信

LINE、YouTube、Instagram、Xを活用しながら、社協の活動や災害ボランティア情報、地域の子育てサロン情報などを積極的に発信し、タイムリーな情報発信を行っている。

11. リフトカー運行事業

リフトカー運行事業

著しく歩行が困難で車いすを利用している方や、寝たきりの状態にあるなど既存の公共交通機関の利用が困難な方を対象に、リフトカー2台による送迎支援を実施している。

ここ数年、新規登録者数および稼働日数はともに増加傾向にあり、通院・通所・通学など日常生活を支える移動手段としての役割が一層高まっている。



令和7年度実績

(1)リフトカー運行事業 運行台数：2台														
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均	合計
運行日数	22	23	25	26	23	22	27	20	24	20	22	21	22.9	275
延運行距離	1,876	1,949	2,341	1,911	1,438	1,994	2,085	1,474	1,876	1,657	1,507	1,964	1839.3	22,072
延利用者数	58	66	68	60	46	61	69	60	55	62	50	59	59.5	714
新規登録者	0	4	0	1	2	4	3	1	1	1	0	1	1.5	18

利用者アンケートより（一部抜粋）

「いつも助かっています。ありがとうございます。」

「突然の利用にも丁寧に相談対応いただき、大変助かりました。」

「仕事をしているため、子どもの送迎支援が大きな助けになっています。」

「雨の日でも変わらず対応していただき、本当に感謝しています。」

「運転ができないため、リフトカーの存在が非常にありがたいです。」

12. 福祉バス運行事業

福祉バス運行事業

地域福祉団体のミニデイや視察研修、福祉団体の各種イベント、スポーツ大会への参加等に幅広く活用されている。

また、教育委員会やコミュニティ運営協議会、おおの山城大文字まつり実行委員会などの公的団体も活用しており、地域の移動手段を安定的に支える重要な役割を担っている。

加えて、令和7年度より、生活支援および高齢者の外出促進、地域のつながりづくりを目的とした買い物支援運行を開始した。(市補助事業)

令和7年度実績

●福祉バス運行状況：乗車26人乗り（マイクロバス）

稼働日数：169日（前年比-1日）／延べ利用者数 2970人（前年比+61人）

延べ利用：166団体（前年比-1団体）

利用者アンケートより（一部抜粋）

「運転手の方が土地勘もあり、移動中の案内や地域情報の話も楽しく、安心して参加できた。」

「福祉バスを利用できることで、限られた予算でも地域活動やバスハイクを継続でき、大変助かっている。」

「運転手や社協職員の対応が丁寧で、安全運転や細かな配慮もあり、参加者から好評だった。」

「座席間隔が狭く、高齢者には立ち座りがしにくい。新しい車両の乗り心地は良かった。」

●買物サポート号（通称：カイスポ号）の実施状況

令和7年度から、上記運行のうち、地域・事業者・ボランティア・社協が関わる形で、生活を支える取組を実施した。

実施状況：4回

令和7年6月27日 下大利団地

令和7年12月11日 南ヶ丘2区

令和8年1月27日 南ヶ丘1区（テスト運行）

令和8年2月27日 下大利団地

13. 福祉用具貸出事業

共募／
老人福祉活動事業

福祉用具貸出事業では、子どもから高齢者まで、病気やけがなどにより一時的にベッドや車いすを必要とする方へ貸出を行っている。また、介護保険や他制度の利用が難しい方に対しても、柔軟に対応し、地域の暮らしを支える役割を果たしている。

車いすの貸出においては、小学校での福祉教育、福祉施設での外出支援、企業の職員研修、選挙の投票所対応など、多様な用途での利用が増加している。

令和7年度実績

貸出件数：車いす 80件（前年比 +20件） 電動ベッド 11件（前年比+8件）

団体貸出件数：車いす 10団体 計41台（前年比 +10件）

14. ハンディキャブ貸出事業

共募／福祉育成・
援助活動

歩行や外出が困難な人に対して社会参加のひとつの手段として車いすのまま乗ることができる軽自動車（ハンディキャブ）を貸出ししている。運転は家族や友人などで気軽に使え、社会参加の1つの手段として、福祉の増進を図ることを目的としている。

また、ハンディキャブの新たな活用方法として、令和5年10月から利用対象を“区”へ広げ、地域行事やミニデイなどに参加しやすくなるように貸出を行っている。なお、つつじヶ丘区の参加者送迎の活動について、中央共同募金会の取材を受け、ホームページで紹介された。

さらに、大野城市訪問型サービスD（移動支援）事業において、介護予防の場への送迎支援としても活用している。

令和7年度実績

(1) ハンディキャブ(個人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均	合計
登録者数(人)	51	54	58	59	61	64	67	68	68	69	69	69	-	757
新規(人)	0	3	4	1	2	3	3	1	0	1	0	0	-	18
稼働日数(日)	20	15	14	14	11	10	12	13	12	13	10	16	13	160
延利用者数(人)	20	16	16	15	13	11	18	15	15	17	11	17	15	184

(2) ハンディキャブ(地域)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均	合計
稼働日数(日)	0	2	3	3	3	3	5	6	4	2	4	2	-	37
延利用者数(人)	0	8	6	13	7	10	21	18	12	4	16	7	-	122
貸出件数②	0	2	4	4	3	4	6	6	4	2	5	3	-	43

(3) 訪問型サービスD事業

p. 52 に記載されている令和7年度実績を参照

利用者アンケートより（一部抜粋）

「他市にはないサービスで、とても助かっています。今後も継続をお願いしたいです。」

「体調が悪い時にも利用でき、親切な対応に感謝しています。」

「通院時に毎月利用しており、急な予定変更にも柔軟に対応いただき助かっています。」

「いつも丁寧に対応していただき、安心して利用しています。」

「日頃から大変助かっており、今後も利用したいと思います。」

15. 高齢者福祉対策事業

共募／
老人福祉活動事業

大野城市の高齢化率は、22.7%（令和8年3月）と近年少しずつ増加している。今後も高齢者数は増加傾向にあり、日頃から会員相互で活動しているシニアクラブの活動は、仲間づくりや生きがいを目的の一つにしていて、高齢者福祉施策の大事な活動になっている。

社協の地域・団体支援担当職員が、必要に応じて支援をしている。

令和7年度実績

1 大野城市シニアクラブ連合会への活動支援

シニアクラブ連合会では、活力ある長寿社会の実現に向けて、生きがいと健康づくりや長年培ってきた知識、経験を地域社会のために生かす取り組みや、通学路における小学生の見守り活動等を展開されている。

職員派遣①

期 日： 令和7年5月13日（火）
場 所： 大野城市総合グラウンド
内 容： 第34回大野城市シニアクラブ連合会ペタンク大会

職員派遣②

期 日： 令和7年5月27日（火）
場 所： 大野城市総合グラウンド
内 容： 第40回大野城市シニアクラブ連合会グラウンド・ゴルフ大会（個人戦）

職員派遣③

期 日： 令和7年10月21日（火）
場 所： 大野城市総合グラウンド
内 容： 第41回大野城市シニアクラブ連合会グランドゴルフ大会（団体戦）

2 大野城市シニアクラブ連合会への助成

共同募金配分金の助成により、会員相互の健康保持のための活動や各スポーツ大会、シニア歌謡音楽祭、見守り訪問活動などの活動を支援している。

16. 身体障がい者福祉対策事業

共募／障害児・者
福祉活動

身体障がい者福祉協会や障がい者施設団体連絡協議会等、当事者組織と連携を図り、ハンディを持つ人たちの社会参加をサポートしながら、当事者団体が企画する事業や会議に社協からも出席し、必要に応じての支援や情報提供を行っている。

1 大野城市身体障がい者福祉協会への支援

共同募金配分金での助成を行なうとともに、事業の実施における活動支援をおこなった。

(1) 下関海響館バスツアー

日 時 令和7年10月18日(土) 職員1名派遣

(2) 柿狩り

日 時 令和7年11月17日(月) 職員1名派遣

(3) 桃寿会

日 時 令和8年 2月26日(木)

2 大野城市障がい者施設団体連絡協議会への支援

社協の地域・団体支援担当職員が事務局を担い、活動を支援している。

◇ほっとすぽっと「サン・サン」の支援(基本第2・4土曜日/まどかびあ)

◇大野城心のふるさと館内(ここふるショップ)における授産品の販売

◇研修会

日 時	令和7年9月6日(土) 13:30～15:00
講 演	防災減災のすすめ～福祉施設編～
講 師	大野城市危機管理課
参 加 者	23名

◇運動会・お楽しみコンサート

日 時	令和7年10月25日(土) 10:30～14:00
会 場	福岡自治研修センター 体育館・和室B
参 加 者	利用者 72名／職員・ボランティア 58名 合計 130名
その他参加	特別養護老人ホームはなつくし、しあわせ保育園
お菓子提供	一般財団法人あすたむ舎(大池1丁目)

◇視察研修

日 時	令和8年1月22日(木)
行 先	①社会福祉法人 宰府福祉会 ②ココちゃんうどん(就労継続支援B型事業所)
参 加 者	17名

17. 知的障がい児者福祉対策事業

共募／障害児・者
福祉活動

ふれあいの旅は、ハンディのある人とボランティアと一緒に時間を過ごすことでお互いの成長につながる旅である。令和 7 年度で 43 回目を迎え、近年では日帰りで開催し、長年参加されているボランティアや新規ボランティアとの交流の機会にもなっている。令和 7 年度は 7 月 13 日(日)・9 月 21 日(日)の 2 回に分けて行った。

令和 7 年度実績

1 ふれあいの旅 2025 (第 43 回)

期 日 : 令和 7 年 7 月 13 日(日)・9 月 21 日(日) 計 2 回
場 所 : 福岡県福岡市方面 (BOSS E・ZO FUKUOKA、福岡ヒルトンシーホーク、福岡タワー)
参 加 者 : 7 月 13 日(日): 57 名 (参加者 24 名、ボランティア 28 名、職員 3 名、看護師 1 名、添乗員 1 名)
9 月 21 日(日): 55 名 (参加者 22 名、ボランティア 28 名、職員 3 名、看護師 1 名、添乗員 1 名)

2 大野城市手をつなぐ育成会への助成

共同募金配分金をとおり、その活動の助成を行っている。
社協の団体支援担当職員が、必要に応じて支援を行っている。

18. 子育て支援事業

共募／児童・青少年
福祉活動事業

大野城市に転入して間もない親子や、子育てに悩む親の支援、居場所や仲間づくりを支援するサークル登録、保育所への遊具設置など、子育て時期の不安や孤独感を軽減し、親と子どもたちが安心して過ごせる場を提供し、子育てしやすい環境づくりを図っている。

地域・団体支援担当職員が、地域の子育て支援活動を支援している。

令和 7 年度実績

1 子育てサロン情報の配信

安心して子育てできる環境を目指し、地域のサロンや、登録サークルの活動内容や市内外の子育て支援に関する情報などをホームページや SNS で発信している。

2 保育所に遊具等の助成【のぞみ愛児園】

共同募金配分金より毎年 1 ヶ所私立保育所へ遊具等の助成を (239, 046 円) 行なっている。

3 遊具の貸出状況

子どもの健やかな成長を支えること、また、地域での遊びの機会を支援することを目的に、社協に登録している子育てサークル及び各区公民館で開催される子育てサロンに遊具の貸出しを行っている。貸出申請は 40 件。

4 第 1 回地域ボランティア交流会への参加協力

市が行った令和 7 年 5 月 30 日 (金) に行った第 1 回地域ボランティア交流会の参加者どうしの情報交換と活動における“居場所づくり”の意義を再確認することを目的にグループワークを進行、各グループでの話し合いへの協力を行った。

19. 児童青少年福祉対策事業

共募／児童・青少年
福祉活動事業

令和7年度実績

1 大野城市子ども会育成会連絡協議会への助成

共同募金配分金を活用し、子ども会育成会では、「子どもが主役だ・地域で育てよう子どもたち」を主眼に、子どもの健全育成、地域（各単位子ども会）の発展に向けて、活動が展開されている。共同募金運動では、団体で街頭募金を実施している。

2 保護司会への助成

共同募金配分金をとおして、保護司会では保護司信条である社会奉仕の精神をもって、過ちに陥った人たちの更生に尽くされる活動が行われている。

20. 学校における福祉教育

共募／児童・青少年
福祉活動事業

令和7年度実績

1 福祉教育教材「ともに生きる」活用推進

小学校へ希望調査を行い、小学校3・4年生を対象に配布し、教材を基本とした授業を実施した。

対 象： 市内小学校3年生または4年生、大野城市教育委員会
配 布 数： 1,300部

2 学校における福祉教育

社協では地域福祉活動計画を策定し、市と連携しながら、多様な主体による福祉教育を実施した。

	開催日	学校名・学年	内容	ゲストティーチャー
1	5月14日	大野北小3年生	支え合うって？社協について	社会福祉協議会
2	6月6日	大野北小3年生	ボランティアについて知ろう！	社会福祉協議会
3	6月20日	大城小4年生	視覚障がいの方との交流	当事者（視覚）、ガイドヘルパー
4	7月2日	大利小4年生	ボッチャ体験	福岡県障がい者スポーツ協会、当事者（身体）、大野城市スポーツ推進員
5	7月8日	大野北小4年生	ボッチャ体験 給食交流	福岡県障がい者スポーツ協会、当事者（身体）、大野城市スポーツ推進員、あけぼの園
6	7月14日	大城小4年生	身体障がいの方との交流	まどか園
7	9月24日	大野南小4年生	視覚障がいの方との交流	当事者（視覚）、ガイドヘルパー
8	9月26日	大城小4年生	知的障がいの方たちとの交流・給食交流	はまゆうワークセンター大野城

9	10月8日	大野小4年生	車いす体験	社会福祉協議会
10	10月9日	大野小4年生	車いす体験	社会福祉協議会
11	10月22日	平野小3年生	視覚障がいの方との交流	当事者（視覚）
12	10月29日	大野南小4年生	ボッチャ体験	福岡県障がい者スポーツ協会、当事者（身体）、大野城市スポーツ推進員、大野城市スポーツ課
13	11月7日	大野南小4年生	手話体験	当事者（聴覚）、手話の会
14	11月12日	平野小3年生	手話体験	当事者（聴覚）、手話の会
15	11月13日	大野小4年生	車いすバスケット体験	当事者（身体）
16	11月25日	大野小4年生	視覚障がいの方との交流	当事者（視覚）
17	12月23日	月の浦小3年生	視覚障がいの方との交流 給食交流	当事者（視覚）
18	1月21日	月の浦小3年生	ボッチャ体験	福岡県障がい者スポーツ協会、当事者（身体）、大野城市スポーツ推進員
19	1月20日	大野東小3年生	車いすバスケット体験	当事者（身体）
20	2月2日	大野東小3年生	ボッチャ体験 給食交流	福岡県障がい者スポーツ協会、当事者（身体）、大野城市スポーツ推進員、あけぼの園
21	2月10日	大野東小3年生	視覚障がいの方との交流	当事者（視覚）

開催回数：21回 参加学校数：7校 参加児童数：2770名

3 福祉教育基礎研修会

ともに支え合う心豊かな地域共生社会の実現に向けて、学校と地域がともに学び福祉意識の一体的な向上を目指すことを目的として開催した。

日時：令和7年8月1日(金) 10時～15時

会場：福岡自治研修センター（愛称：まなびのやど）

対象：（Ⅰ）市内教職員

- ・福祉教育推進校の先生
- ・福祉、ボランティア学習を計画している先生
- ・主幹教諭の先生 など

（Ⅱ）地域関係者（区役員、民生委員児童委員、福祉委員など）

（Ⅲ）社会福祉施設職員

（Ⅳ）福祉教育・ボランティア学習に興味のある方 など

参加者数：54名

共催協力：大野城市社会福祉協議会、大野城市、大野城市教育委員会

一般社団法人福岡県障がい者スポーツ協会、啓発キャラバン隊まどか
（大野城市手をつなぐ育成会、大野城市障がい者施設団体連絡協議会）

（1）講演

「スクール・コミュニティと福祉教育～不登校解消に向けた取組について～」

講師：大野城市教育委員会教育支援課 主幹指導主事 山川 周作 氏

（2）基調講演

「地域の福祉力・教育力を活かした福祉教育実践とは」

講師：一般社団法人ボランティアセンター支援機構おおさか代表理事・ふくしと教育の実践研究所 SOLA(Social-Labo) 主宰 新崎 国広 氏（元大阪教育大学教授）

(3) テーマ別講座

- ① 「生きづらさを抱える子どもたちへの福祉教育」
講師 新崎 国広 氏
- ② 「パラスポーツってなに？から始める授業づくり」
講師 福岡県障がい者スポーツ協会 佛坂 晋平 氏
- ③ 「障がいのある子どもたちの世界を“ちょっと体験”～保護者と専門職が伝える日常と支援～」
講師 啓発キャラバン隊まどか 大野城市手をつなぐ育成会 赤井田 八千代 氏
救護施設 仁風園 田吹 暢浩 氏

市内の10小学校の中から福祉教育推進校となる1校を教育委員会・校長会で選定していただき、1期2年として福祉教育教材「ともに生きる」を活用したプログラムを学校・市・社協の三者で取り組んでいる。

コロナ禍を踏まえ、意見交換を行いながら新たな福祉教育プログラムづくりに取り組んだ。

第1期	(平成28年・29年度)	大野小学校4年生
第2期	(平成30年・令和元年度)	大野北小学校3年生・4年生
第3期	(令和2年・3年度)	大野南小学校4年生
第4期	(令和4年・5年度)	大野東小学校4年生
第5期	(令和6年・7年度)	大利小学校4年生

21. 母子父子福祉対策事業

共募／母子・父子
福祉活動事業

ひとり親家庭の相談に対する支援(母子会会議での助言や活動支援等)を行う。

社協の地域・団体支援担当職員が、必要に応じて支援を行っている。

令和7年度実績

1 大野城市母子寡婦福祉会への支援

大野城市母子寡婦福祉会では、共同募金配分金を活用し、日常における母子家庭の生活の安定等を目指して、自立促進につながる総合的なひとり親家族の施策を充実するための活動が展開されている。

- ◆福岡県(受託:福岡県母子寡婦福祉連合会)学習支援ボランティア事業の支援
- ◆クリスマス会等の行事支援
- ◆企業からの物品寄附のコーディネート

22. 介護者支援事業

共募／老人福祉
活動事業

高齢者等の介護をされている家族を対象に、日帰りのリフレッシュ事業などを開催し、介護者同士のつながりをつくることなどを目的として事業を実施している。

令和7年度実績

介護者家族のつどい

介護者同士が交流や情報交換を図ることで介護に関する不安や悩みを軽減していくことを目的として、「介護者のつどい」を行ってきたが、近年、市内で展開されている複数の介護者を対象とした活動(認知症カフェなど)の周知支援を行っている。今後もニーズに応じて既存の社会資源を活用しながら介護者支援を活性化していく。

23. 大野城市ふくしフェスティバル 2025

共募／福祉育成・
援助活動事業

令和7年度実績

福祉についてより多くの人に知ってもらうとともに、市民の地域福祉活動を推進することを目的として、幅広い層の市民が参加しやすい実行委員会形式で毎年企画・実施しているイベントである。

日 時 令和7年11月23日（日・祝）午前10時半～午後4時

場 所 まどか広場・市役所南駐車場、大野城市総合福祉センター
大野城まどかぴあ・南側広場、大野城心のふるさと館

内 容 ステージ発表、映画上映、ボランティア体験コーナー、わくわく縁日、ボッチャ体験、権利擁護セミナー、出店コーナー、キッチンカーなど

来場者数 約7,000人

主 催 大野城市ふくしフェスティバル実行委員会

共 催 大野城市・大野城市社会福祉協議会



24. ボランティア活動推進

ボランティアセンター

おおのじょうボランティアセンターでは、対面でのボランティア相談受付のほか、社協ホームページに掲載しているボランティアエントリーシステムなどを活用し、インターネットを用いた活動紹介も行っている。“やってみたい…をやりたい！”にできるよう進めている。

令和7年度実績

1 ボランティア活動相談・コーディネート状況

コーディネート延べ件数 : 205 件 [内、ボランティア保険 157 件 638 名加入]

※相談延べ件数 : 48 件 (対面または電話での相談)

- ・活動希望、情報収集に関する相談件数 : 20 件
- ・ボランティアニーズに関する相談件数 : 28 件

コーディネートを行ったボランティア活動の主な内容

- ・何かボランティアをしたい、自分にできるボランティアを知りたいという方へ
その方の興味のあることを聞き取ったうえでグループを紹介・活動できる場の提供
(学習支援、手話、子育て支援、傾聴、不登校児支援 他)
- ・施設(高齢者施設、放課後等デイサービス)や地域からの団体に来てほしいという依頼に対して
施設の希望と団体や、登録している個人の方の予定の調整
(レクリエーション、傾聴ボランティア、エイサー、手品、ハーモニカ 他)
- ・やりたい分野が決まっている方へ
団体の代表に確認をとり紹介
(手話の会、点訳サークル、傾聴、子ども食堂、学習支援、にほんご教室 他)
- ・ボランティアエントリーシステムの運用、活用
本会ホームページより気軽に参加できる仕組みの運用
- ・ボランティア活動支援団体との情報交換会(フロント事業)の実施 4 回

2 ボランティアセンター運営委員会

運営委員(4名): 民生委員経験者、ボランティア連絡協議会、障がい者施設団体連絡協議会、
有識者各1名

開催回数 : 4 回

開催年月日			議 題	出席者
令和7年	5月15日	第1回	○おおのじょうボランティアのつどいについて ○ボランティア・市民活動フロント事業について	4名
	9月8日	第2回	○おおのじょうボランティアのつどいについて ○ボランティア・市民活動フロント事業について	4名

	12月17日	第3回	○おおのじょうボランティアのつどいについて ○ボランティア・市民活動フロント事業について ○ボランティアセンター団体登録基準（案）について	3名
	2月10日	第4回	○おおのじょうボランティアのつどいについて ○ボランティア・市民活動フロント事業について ○ボランティアコーディネーション力3級検定（報告）	4名

③「ボランティアのつどい」開催

ボランティアについての理解を深め、活動者同士のつながりづくりや情報交換を目的に毎年開催しており、市内で活動しているグループや個人をはじめ、市役所、NPO など幅広い参加があった。

また、東日本大震災から15年が経ち、南相馬市とオンラインでつながり、共に黙祷を行った。

日 時 令和8年3月11日(水)午後1時30分～午後4時
場 所 大野城まどかぴあ多目的ホール
テ ー マ 「ボランティアの情報発信・啓発について考えてみよう！」
参加者数 39名
主 催 大野城市社会福祉協議会
企画・運営 ボランティアセンター運営委員会

④ ボランティア活動に関する顔合わせ・情報交換会（大野城市ボランティア・市民活動フロント事業）

ボランティアコーディネートを行う団体との顔合わせおよび情報交換を行い、互いの活動内容を共有するとともに、今後のボランティア・市民活動の推進につなげることを目的として、情報交換会を開催した。

参加者・団体： NPO 法人共働のまち大野城、男女平等推進センターアスカラ、
大野城市社会福祉協議会 加留部 貴行氏（ボランティアセンター運営委員会 委員長[オブザーバー]）
開催回数： 4回

開催年月日			議 題	開催場所	出席者
	4月17日	第5回	・各団体の近況報告、今後の活動予定 ・買い物支援について	総合福祉センター	10名
	9月4日	第6回	・各団体の近況報告、今後の活動予定 ・ボランティアコーディネーション力3級検定開催のお知らせ	大野城まどかぴあ	11名
	12月18日	第7回	・各団体の近況報告、今後の活動予定 ・買い物支援について	北コミュニティセンター	10名
令和8年	2月26日	第8回	・各団体の近況報告、今後の活動予定 ・各センターに寄せられた相談について	大野城まどかぴあ	9名

5 ボランティアコーディネーション力3級検定 in 大野城の開催

ボランティアやコーディネーションの輪を広げ、地域共生社会の理念の促進および福祉のまちづくりの推進を目的として開催した。

当日は、大野城市内の区長や福祉推進委員をはじめ、県内の社会福祉協議会職員やNPO 法人職員など、幅広い分野から受験があった。

日 時 令和8年2月7日（土）午前10時～午後6時

場 所 大野城市総合福祉センター3階大会議室

内 容 ボランティアやコーディネーションを学ぶ直前研修および検定試験

受験者数 44名

主 催 大野城市社会福祉協議会

後 援 大野城市、大野城市教育委員会、福岡県社会福祉協議会

6 被災地での災害ボランティア活動希望者への情報提供・コーディネート等

大野城市民の方々に被災地においてボランティア活動を希望される方への情報提供や、ボランティア保険の手続きを行い、被災地にて気をつけることなどアドバイスを行った。

被災地（福津・宗像、熊本県など）での活動人数：19名

（大野城市社協にて保険手続きを行われた方のなかで、被災地支援を希望された方の人数）

7 ボランティアエントリーシステムの運用 掲載延べ件数：27件／活動者数：114名

ホームページから簡単に申込ができるようなツールとしてのシステム構築し、ボランティアの募集を行った。今後も随時、気軽に参加できるようなボランティア活動メニューを増やしていく。

募集したボランティア活動メニュー

- ・食料支援 ・運転、送迎ボランティア ・スマホの使い方講座
- ・ふくしフェスティバル当日ボランティア
- ・ふれあいの旅 ・子育て支援（地域の子育てサロン、親子でリトミックなど）
- ・グループ活動の補助 ・地域および福祉施設のお祭り、行事、イベント 他

【New】ぶくぶくfriends ボランティア募集！



NPO法人ぶくぶくは『ママが笑顔にできる場所作り』をテーマに活動しております。『ぶくぶくfriends』はその中の一環として活動している子育て支援サークルです。

この思いにご賛同頂ける方、一緒に活動して下さる方を募集致します！

☆NPO法人ぶくぶくの活動は[こちら \(Instagram\)](#)

■活動日：毎月第4月曜日 9:30～可能なお時間まで

■集合場所・会場：大野城市総合福祉センター ▶ [場所 \(こちらから確認できます\)](#)

■募集人数：1名

■申込締切：随時募集中！

■お申込み方法

下記「エントリーはこちら」より

[エントリーはこちら](#)

ボランティア活動中！ ネットで参加申し込みできる！

ボランティアエントリー

エントリーは **コチラ** クリック！

8 ボランティアセンター登録

★ボランティア登録者数（団体登録者 989 名 個人登録者 183 名）

★ボランティア団体登録状況

総合福祉センター 1 階のボランティアセンターを拠点に活動しているボランティアグループの支援を行うとともに、ボランティアセンターはボランティアの集まり・交流の場として、なくてはならないスペースであり、コピー機や大型プリンターは各種団体や地域の利用も増えている。

◆大野城市ボランティア連絡協議会 構成数 8 グループ

グループ名	活動内容	会員数
大野城手話の会	手話講習会の開催、手話通訳者の派遣、聴覚障がい者との交流会	26 名
点訳サークル あゆみの会	点訳講習会の開催、各種点訳活動、視覚障がい者との交流会	14 名
朗読の会 文鳥	朗読講習会の開催、社協だよりや図書の吹き込み、視覚障がい者との交流会	21 名
スニーカー	手をつなぐ育成会の支援、知的ハンディを持つ方々とのレクリエーション活動	10 名
介護ボランティア ききょう	特別養護老人ホームでのお手伝い、食事サービス利用者への絵手紙づくり	13 名
おもちゃの図書館 あいあい	障がいを持つ子どもも持たない子どもも、共に遊ぶおもちゃの図書館の開館、手作りおもちゃの作成	12 名
拡大写本 虹の会	弱視の方から要請のある図書の拡大写本づくり、視覚障がい者との交流会	8 名
大野城要約筆記の会 あ	聴覚障がい者への文字による同時通訳活動、要約筆記奉仕員養成講座の開催	9 名

◆ボランティアセンター登録グループ 43 グループ

グループ名	活動内容	会員数
NPO 法人 アジア女性センター	子どもと女性の人権を守るためのサポート事業、海外支援、交流事業、提言、ネットワーク事業（調査、研究）	139 名
ボランティアグループりんごの会	近隣の公民館や福祉施設等で唄や踊り、楽器演奏などを通しての慰問活動	7 名
花の芽クラブ	障がいのある人とない人が一緒に楽しめる風船バレーボールを通しての交流活動及び普及活動	24 名
グループファンタジア	施設や敬老会等でのマジックボランティアやマジックによる各種団体との交流活動	8 名
大野城市国際交流協会	コミュニティ活動等を活かした国際交流の推進	111 名
おもちゃ病院大野城	壊れたおもちゃの修理を通して子どもたちにもものを大切にする気持ちをはぐくむ活動	6 名

創人エイサー守破離太鼓	各種団体からの依頼による、創作エイサーの披露等	20 名
大野城傾聴ボランティア「ダンボ」	大野城市内の施設等における傾聴ボランティア活動	15 名
大野城学習支援室・かぼちゃ	さまざまな理由から学習支援を求めている小・中学生に対する学習支援と軽食支援の活動	25 名
おやのかい MIRAI	発達障がいや不登校など子育てに悩みを持つ保護者同士の情報共有や、地域との交流	30 名
にほんご教室きんしゃい	留学生等の外国人に日本語を教え、学習することとおして国際交流を図り会員相互の理解を深める活動	7 名
演歌しゃくなげ	施設等においてギターや三味線、大正琴などの楽器を使って季節の童謡や歌謡曲、懐メロ音楽を演奏	8 名
LaLaLa 音楽レクリエーション	介護予防や認知症予防のための音楽療法やレクリエーションの要素を取り入れた音楽や、子どもを対象にした音とリズムと歌を楽しむ活動	7 名
いきいき健康レクササイズ	レクリエーションの要素を取り入れた椅子に座ったままできる運動（エクササイズ）や昔懐かしい歌を取り入れた運動	13 名
Blue Bear Project	「音楽を通じて人を元気にするバンド」として高齢者施設等にて活動、交通事故の予防やニセ電話詐欺の被害防止に関する講話活動	10 名
なんくる一ず	デイサービスや老人ホーム、公民館等で三味線を使った沖縄民謡や童謡等の演奏	14 名
えがおの会「ハレハレ～hare＊hale～」子どもの居場所	学校に行けない、居場所がないと感じる子どもの居場所をつくる目的としてフリースペース活動、イベント活動などを実施	9 名
MELODY	やさしい音色で奏で、演者も聴いてくださる方も楽しい時間を過ごしていただきたいと願い活動を行っている	8 名
ハーモニカ風の会	仲間づくり、健康づくり、ボケ防止、心と体の健康に必要なのは笑える仲間づくりと語れる笑いづくり。独奏、合奏等を行う。	14 名
防災ほっとキッチン	災害時にあたたかい食事をとれるように、バッククッキングの普及活動 HUG（避難所運営ゲーム）の普及活動	7 名
とっ・とー・たい	ボランティア活動を推進するため、会員の経験と知識を活かし、他人や社会に貢献する活動を中心とした、地方公共団体、大野城市社会福祉活動の推進に取り組む団体と、会員の連絡等、良好なボランティア維持および形成に質する共同活動を行うことを目的とする	22 名
スペース虹	学校に行けない子どもたちや生活が厳しい家庭の子どもたちの居場所を開設し、食事や学習等を支援し、生活の場を提供する活動	26 名
認定 NPO 法人チャイルドケアセンター	こどもたちを中心に、様々な地域の方が多世代にわたり集い、交流する場（こども食堂やフードパントリー等）を提供する活動	14 名
大野城まどかぴあ図書館ブックトークボランティア本のとびら	小・中学生の朝読や授業で 1 つのテーマに沿った本（児童書、小説、科学本など）を紹介し、読書の楽しさを知ってもらう活動	13 名
一般社団法人 Colorful-HappyFull	不登校児を抱えるご家庭に訪問し当事者及びそのご家族のカウンセリング、その他様々なプロと繋がるサポートを行う	15 名

スマイルフレンズ	子育てする親子が、毎回1つのテーマに沿って共感し合いながら友だち作りができる場、情報を提供する場	5名
上大利翔劇団	個人の芸の向上と相互の親睦を深め、日頃努力された結果を披露しながら、お年寄りへの憩いのひとときを提供	43名
オレンジキッチンわれもこ	記憶に不安のある方、認知症を知りたい方、一人暮らしの方と一緒に料理を作り、食事をし、話をするサロン	20名
琉和太鼓 楽結団	「エイサーを楽しみながら縁を結んでいきたい」をモットーに元気と笑顔が共有できる活動を行っている	10名
春日ジャグリングクラブ	パフォーマンスの文化を広める目的と交流の場として活動している。ジャグリングだけでなく、皿回し、ルービックキューブ、バルーン、マジックなど様々な活動を行っている	25名
特定非営利活動法人 グッドネーバーズ・ジャパン	「子どもの笑顔にあふれ、誰もが人間らしく生きられる社会」を目指し、子どもと子どもを取り巻く地域住民の生活改善のため、子どもに焦点を当てた活動を中心に「グッドごはん」などの活動を行っている。	62名
HOP	染色体異常、遺伝子異常、医ケア、重症心身、難病のある子どもを対象に、遊びを通して発達を促し、保護者も情報交換できる場所として活動している	2名
ぶちらいおん	子どもの五感大切にしながら、親子が集える場所として活動	33名
ままいる	コワーキングスペースままいる一むを開催	12名
中学校のより良い給食を考える会@大野城（みんなの食堂ポラリス）	市内の中学生にとって安心して食べられる給食について考え、食を通じた人と人とのつながり（地域交流）の活動	20名
親子リトミック	音楽に合わせて身体を動かしたり、親子のふれあいをつくる活動	20名
NPO 法人 route	交通安全防止や、被害者支援事業などを行い、安心安全なまちづくりを目指す	10名
クロマチックハーモニカ ひよこ組	クロマチックハーモニカの演奏や合奏を通して、楽しんでもらえるような活動	15名
つながるサポート隊	子ども連れでも楽しめるスポットを Instagram にて発信、SNS のサポートなど	2名
NPO 団体ぷくぷく	0歳～未就園児を対象に親子の絆を深める場所づくり、ママの「やりたい」を形にする活動	2名
LUNA ～大人から始めるジャズダンス～	40代～60代のメンバーを中心に活動しているジャズダンスチームです。	10名
上大利女子会	高齢化社会を迎え、互いに支え合い生き生きとした生活を送ることを目的とした活動。	10名
まる福	福祉、障がい理解のある参加者とイベントを開催し、意見交換やふれあいを行う活動	3名

9 声の広報

目の不自由な方や寝たきりの方に、青年団体連絡協議会が広報「大野城」を録音し、社協職員が録音データをCDにしている。朗読の会「文鳥」は、社協だより「ふくしんぼ」、季節のたより「紙飛行機」、希望図書等をCDに録音。あゆみの会は、社協だより「ふくしんぼ」を点字にしている。社協から月に2回特定録音物等郵便物にて登録者へ送付。

令和7年度実績

回数：16回
登録利用者数：6名

25. 被災地支援活動

法人運営費

共募／福祉育成・
援助活動事業

令和7年度実績

1 石川・能登応援の旅

令和6年1月1日に発生した、能登半島地震により被災した石川・能登地方及び北陸地方を「見て、食べて、購入して」応援する企画を開催した。

【実施日】 令和7年10月14日(火)～16日(木) 2泊3日
【参加者】 16名
【行き先】 石川県輪島市、珠洲市、穴水町、金沢市 岐阜県

- 1日目：千里浜なぎさドライブウェイ、のと鉄道語り部列車、能登ワイン工房
- 2日目：輪島朝市、白米千枚田、珠洲市被災地ツアー
- 3日目：白川郷合掌造り、金沢市

2 被災地応援「福島県応援ショップ」の運営支援

総合福祉センター1階ロビーにて、「福島県応援ショップ」として福島県南相馬市の特産品等を中心に販売を行っている。購入を通じた支援を行いながら、「つながり」を大切にし、息の長い応援を継続する。福島県応援ショップ休日・夜間の「相馬きゅうり」購入要望に応るため、1階ロビーに自動販売機で販売している。

26. 総合相談事業

総合相談事業

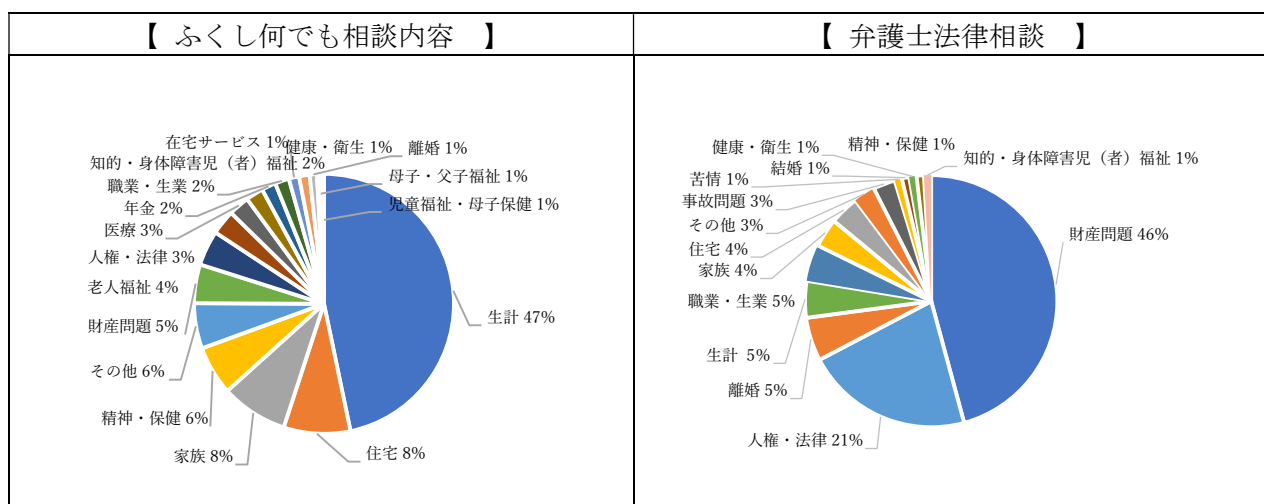
地域住民の悩みを一緒に考え、よりよい解決策をさがし、問題解決を図るため、弁護士による相談（無料法律相談）や悩みごとの相談窓口「あなたのふだんのくらしアシストセンター（総合相談窓口）」を総合福祉センター内に設けている。

地域住民の身近な地域で相談事業を実施するため、4 地区のコミュニティセンターにおいて、弁護士による相談事業を実施した。コロナ禍以降の生活の不安定さや物価高騰等の影響により、生活に不安を感じている方等からの相談が増加傾向にある。

1 相談内容・状況等

令和 7 年度実績

相談内容	相談日	相談件数 (開催回数)
ふくし何でも相談	月曜日から金曜日 9:00～17:00	236 名 328 件
弁護士による電話法律相談	毎月第 2 木曜日 10:00～12:00	29 件 (12 回)
弁護士による心配ごと相談	毎月第 2・第 3 火曜日 10:00～12:00 毎月第 1・第 4 火曜日 10:00～15:00	217 件 (71 回)
コミュニティセンターでの 無料法律相談	(時間はいずれも 18:00～20:00) 東コミュニティセンター 6 月 6 日(金) 南コミュニティセンター 9 月 12 日(金) 中コミュニティセンター 12 月 5 日(金) 北コミュニティセンター 3 月 6 日(金)	2 件 4 件 3 件 4 件



◇相談件数の多い順◇

【ふくし何でも相談】

生計	107 件 (47%)
住宅	19 件 (8%)
家族	19 件 (8%)
精神・保健	14 件 (6%)
その他	13 件 (6%)

【弁護士法律相談】

財産問題	92 件 (40%)
人権・法律	52 件 (23%)
離婚	18 件 (8%)
住宅	16 件 (7%)
家族	11 件 (5%)

2 相談員懇談会の開催

相談事業における近年の傾向や要望を基に、市民が活用しやすい相談事業のあり方を協議し、改善点(開催回数・開催内容)の確認と相談事例の情報交換を行った。

期 日	参 加 者
令和8年2月10日(火)	弁護士6名 相談関係職員弁

3 地域のニーズに応えるための協議・確認事項

他機関における各種相談との差別化を図り、法律相談以前の身の上相談を含む幅広い相談に対応している。広報についても担当弁護士と連携を図りながら積極的に取り組み、地域の方に広く利用していただけるよう環境づくりに努めている。

4 相談ニーズに応えるためのセミナーの開催

ふくし何でも相談、弁護士相談において相談が多い、財産問題、人権・法律問題、老人福祉に関する相談ニーズの充足を図ることを目的にセミナーを開催した。

1. 終活セミナー(令和7年 9月 6日(土) 開催) 参加者 23名
2. 相続セミナー(令和7年11月23日(日) 開催) 参加者 10名
3. 後見セミナー(令和8年 2月27日(金) 開催) 参加者 27名

27. 生活福祉資金貸付事業(県社協受託事業)

生活福祉資金
貸付事業

令和7年度実績

相談件数は増加しているものの、貸付の対象とならない相談も同様に増加傾向にある。その背景には、制度の趣旨になじまない相談があることや、相談者が抱える課題が単に経済的困窮にとどまらず、就労、住居、健康など生活全般にわたる複合的な課題へと複雑化していることが挙げられる。

こうした状況に対応するためには、制度について正確な情報提供を行うとともに、貸付以外の幅広い相談にも対応するため、他機関や他制度との一層の連携が必要となっている。

◇生活福祉資金相談・貸付状況

(※相談件数は初回相談時を標記 ※決定件数は令和6年度申込分を含む)

種 別 / 内 容		相談件数	申込件数	決定件数	貸 付 額
総合支援資金	生活支援費	17	0	0	0 円
	住宅入居費	1	0	0	0 円
	一時生活再建費	1	0	0	0 円
教育支援資金	就学支度費	22	11	9	2,708,000 円
	教育支援費	42	10	8	2,361,000 円
福祉資金	生 業	2	0	0	0 円
	技能修得	2	0	0	0 円
	葬 祭	0	0	0	0 円
	転 宅	13	0	0	0 円
	福祉用具購入	0	0	0	0 円
	障がい者自動車購入	0	0	0	0 円
	住宅改修	0	0	0	0 円
	療養・介護	2	0	0	0 円
	災害援護・国年・ エアコン・必需品	4	0	0	0 円
	緊急小口資金	157	35	31	1,785,000 円
不動産担保型生活資金		5	0	0	0 円
その他		472	0	0	0 円
合 計		740	56	48	6,854,000 円

◇臨時特例つなぎ資金相談・貸付状況

種 別 / 内 容	相談件数	申込件数	決定件数	貸 付 額
臨時特例つなぎ資金	1	1	0	0 円
合 計	1	1	0	0 円

28. 特例貸付相談支援事業(県社協受託事業)

令和7年度においても、弁護士による法律相談を月1回実施した。従来の金曜日夜間および土曜日に加え、新たに祝日にも開催することで、法的課題の解決に向けた相談機会の拡充を図った。

また、令和7年6月から9月にかけて、コロナ特例貸付を利用した世帯を対象に、生活状況等の把握を目的としたアンケート調査を郵送により実施した。その結果、家計状況について「安定していない」と回答した世帯が約44%に上り、依然として厳しい状況にあることが明らかとなった。さらに、本会の相談先としての認知度は約56%であった一方、貸付利用後に実際に本会へ相談を行った世帯は約27%にとどまっており、相談先としてのさらなる周知広報の強化や、相談へのハードルを下げる取り組みなどが求められていることが推察された。

さらに、今年度は特例貸付利用世帯へのフォローアップ支援として、償還滞納や猶予などの手続きが行われていない158世帯を訪問。再訪問含め、延べ訪問件数は263件このうち62世帯の生活状況の聞き取りを行い、償還猶予や免除手続きへの支援につなげた。

令和7年度実績

(開催回数14回 相談件数41件)

相談内容	相談日時		相談件数
無料法律相談	令和7年 4月18日(金)	18:00～20:00	3件
	令和7年 4月29日(火)	10:00～12:00	3件
	令和7年 5月23日(金)	18:00～20:00	2件
	令和7年 6月21日(土)	10:00～12:00	3件
	令和7年 7月18日(金)	18:00～20:00	2件
	令和7年 8月 8日(金)	18:00～20:00	3件
	令和7年 9月20日(土)	10:00～12:00	3件
	令和7年 9月23日(火)	10:00～12:00	4件
	令和7年10月17日(金)	18:00～20:00	3件
	令和8年11月28日(金)	18:00～20:00	2件
	令和8年12月20日(土)	10:00～12:00	3件
	令和8年 1月23日(金)	18:00～20:00	4件
	令和8年 2月20日(金)	18:00～20:00	3件
	令和8年 3月14日(土)	10:00～12:00	3件

29. 日常生活自立支援事業

日常生活
自立支援事業

社会福祉法に基づき、認知症の方、知的障がい者、精神障がい者の方で判断能力が不十分なため日常生活が困難な方に対して、自立した地域生活が送れるよう、社協に生活支援員を配置し、福祉サービスの利用や日常的金銭管理、書類等（預貯金通帳）の預かり等のサポートを行っている。

日常生活自立支援事業は、市民参加が難しい権利擁護事業において、唯一市民参加が可能な事業として位置づけし、地域福祉関係者に生活支援員を担っていただいている。

国の施策としては新日自として身寄りのいない高齢者等への支援の検討が進んでおり、今後の動向を確認しながら死後事務等への対応の検討等を進めていく。

令和 8 年 3 月末

◇新規相談件数 : 18 名 (男性 7 名 女性 11 名)

類型内訳: 認知症 12 名 精神 2 名 知的 4 名

◇利用者数 : 30 名 (男性 17 名 女性 13 名)

類型内訳: 認知症 20 名 知的 4 名 精神 6 名

◇専門員 1 名

◇生活支援員 援助活動実績表 生活支援員 15 名 (内、担当社協職員 4 名)

	件数	回数	終了	開始
4 月	22	52	0	0
5 月	23	44	0	1
6 月	23	51	0	0
7 月	25	58	1	3
8 月	27	50	0	2
9 月	26	57	1	0
10 月	28	67	0	2
11 月	29	48	0	1
12 月	31	65	0	2
1 月	30	55	1	0
2 月	31	53	0	1
3 月	30	56	1	0
合計	325	656	4	12

30. 法人後見事業

法人後見は、法人が成年後見人等となり、判断能力が不十分な人の権利を守り、生活を支える仕組みである。社協では、知的障がい者や精神障がい者など意思決定が難しい人を対象に、法人として財産管理や身上保護を継続的に行っている。法人後見は、担当職員が交代しても法人として業務を引き継げるため、支援が途切れないという利点がある。そのため、法人内で権利擁護に関する理解を深めることや専門職との連携など、持続可能な体制づくりを進めている。

令和7年度実績

① 受任ケース類型

後見 1件

保佐 2件

② 成年後見運営委員会の開催

後見業務の実施にあたり、被後見人等の権利を擁護するとともに、業務の公正性及び専門性を確保するため、定期的に成年後見運営委員会を開催している。

第1回成年後見運営委員会

期 日 : 令和7年10月17日(金)

場 所 : 大野城まどかびあ 3階306会議室

運営委員 : 弁護士(1)、司法書士(1)、社会福祉士(2)、行政関係者(1)、計5名

内 容 : 受任中ケースの定期報告(3件)

第2回成年後見運営委員会

期 日 : 令和7年3月19日(水)

場 所 : 大野城市総合福祉センター2階多目的室

運営委員 : 弁護士(1)、社会福祉士(2) 計3名

内 容 : 受任中ケースの定期報告(3件)

③ 成年後見制度利用促進基本計画策定及び中核機関協議会の取組状況について

中核機関である大野城市すこやか長寿課、福祉サービス課と定期的に、申し立てケースの情報共有し、成年後見制度の広報・啓発活動と相談対応・利用支援等の取組を進めている。

31. ライフレスキュー事業

法人運営費

社会福祉法人の公益事業として県下で進められている生活困窮者等に対する相談・支援事業である「ふくおかライフレスキュー事業：主管福岡県社会福祉協議会等」に参加し、権利擁護事業の拡充を図る。この事業に参画する市内の社会福祉法人及び市の関係部署とも連携を図りながら、緊急を要する人への食材支援、ライフラインの復旧などの経済的援助（現物給付）を行い、個別支援を強化する。

令和7年度実績

ふくおかライフレスキュー事業による相談対応を2件実施。継続的な伴走支援として、日常生活自立支援事業の利用へと繋がった。

生活困窮に関する相談は増加傾向にあり、生活困窮者支援として食糧支援を56件（59回）行った。

食料支援	件数	回数
4月	2	2
5月	8	9
6月	2	2
7月	4	4
8月	5	5
9月	5	5
10月	5	7
11月	6	6
12月	2	2
1月	6	6
2月	5	5
3月	6	6
合計	56	59

32. 死後事務事業

死後事務事業では、亡くなった後の手続きを行う。

生前の権利擁護としては、日常生活自立支援事業や成年後見制度といった分野において権利擁護が行われるが、亡くなられた後の権利擁護、また亡くなった時の心配、不安を軽減させるための事業である。

令和7年度実績

令和4年度より事業開始。

令和7年度に日常生活自立支援事業の利用者1名の方と契約を行った。

逝去されたことから、死後事務の執行を行っている。

<居宅介護サービス課>

33. 介護サービス事業

介護サービス事業については、地域福祉活動の視点をもって社協らしい介護サービス事業を展開すべく職員の資質向上に努めた。

市受託事業
居宅介護等支援事業
指定訪問介護事業
訪問型サービス
指定訪問入浴
障がい福祉サービス事業
地域生活支援事業

区 分	施 策	活 動 内 容
介護保険事業	指定居宅介護支援事業	介護支援専門員によるケアプランの作成（要介護及び総合事業）
	指定訪問介護事業	訪問介護員が居宅に伺い、身体介護・生活援助のホームヘルプサービスの提供 〈実施〉月～日曜日 7:00～24:00
	指定訪問入浴介護事業	看護職員等が居宅に移動入浴車で伺い、浴槽を搬入し入浴介護サービスの提供 〈実施〉月～日曜日 8:30～21:00
総合事業	訪問サービス国基準	訪問介護員が居宅に伺い、主に身体介護のホームヘルプサービスの提供 〈実施〉月～日曜日 8:30～17:00
	訪問型サービスD（移動支援）事業	要支援者等に対し、介護予防ケアマネジメントに基づき、介護予防の場への送迎支援及び買物や通院等が困難である者に対する移送前後の付添い支援サービスの提供を行う。
地域生活支援事業	移動支援	平成18年10月より新設された障がい福祉サービスの一部。移動に支援を必要とする方を対象とした移動支援サービス。屋外での移動が困難な障がい児（者）に対して、余暇活動や社会生活上必要な外出時の支援及び学校等への送迎を行う。
	訪問入浴サービス事業	身体障がい者の方（65歳未満）・介護保険外の高齢者の方への移動入浴車による入浴介護サービスの提供
受託事業	乳児家庭全戸訪問事業（こんにちは赤ちゃん訪問事業）	生後4か月未満の乳児のいる家庭に訪問し、育児に関する不安や悩みの聴取・相談、親子の心身の状況や養育環境の把握、子育て支援に関する情報提供を行う。
障がい福祉サービス	居宅介護	ホームヘルプサービスと呼ばれているサービスで、自宅で入浴・排泄・食事などの介護を行う。
	重度訪問介護	重度の肢体不自由者で、常に介護が必要な障がい者に、自宅で入浴・排泄・食事の介助を行う。外出時の移動を助け、移動中の介護も行う。
	行動援護	知的障がいや精神障がいにより行動が困難で常に介護が必要な障がい者に、行動するときの危険を回避する援助や外出時の移動の補助を行う。
	同行援護	視覚障がいにより、移動に著しい困難を有する者に、外出時において同行し、移動に必要な情報を提供するとともに、移動の援護、排泄・食事等の介護等を行う。
制度外	ほっとサポート	① 制度上（障害者総合支援法、介護保険法等）のホームヘルパー派遣において制限を受ける人 ② ホームヘルパーの派遣を受けないと日常生活に支障をきたす人を対象とするサービス。地域の中で安心して暮らせるように、日常生活に必要な介護等の支援を行うことを目的とした大野城市社会福祉協議会独自の事業

令和7年度大野城市社会福祉協議会介護サービス研修

	訪問介護	訪問入浴	居宅	合同
4月12日(土) 9:00～11:00 社協2F多目的室 ○2025年度の事業方針について(担当 岩永)	○	○	○	
5月10日(土) 9:00～11:00 社協3F大会議室 ○介護保険・障がい福祉サービスの制度について・記録の書き方について ○倫理及び法令遵守・プライバシー保護について(担当 幸)	○	○		
6月14日(土) 9:00～11:00 社協3F大会議室 ○感染症及び食中毒の予防及びまん延防止について(BCP訓練含む)(担当 貝原)	○	○		
7月12日(土) 9:00～11:00 社協3F大会議室 ○接遇について(担当総務・居宅)	○	○	○	○
8月9日(土) 10:00～12:00 社協3F大会議室 ○ハラスメントについて(担当 松田)	○	○		
9月13日(土) 10:00～12:00 社協3F大会議室 ○介護技術による腰痛予防(担当 岩永)	○	○		
10月25日(土) 9:30～11:30 大野城心のふるさと館M2F 講座学習室 ○障がいについて、虐待防止及び身体拘束について(担当 貝原)	○	○	○	
11月8日(土) 9:00～11:00 社協1Fほっとびあ ○看取りについて ○認知症について(担当 岩永)	○	○		
12月13日(土) 9:00～11:00 社協3F大会議室 ○高齢者・障がい者の人権研修・利用者のプライバシー保護・倫理観及び法令遵守(担当総務・居宅)	○	○	○	○
1月10日(土) 9:00～11:00 社協3F大会議室 ○認知症対応について ○看取りについて(担当 岩永)	○	○		
2月14日(土) 9:00～11:00 社協3F大会議室 ○虐待防止及び身体拘束について ○ハラスメントについて(担当 貝原)	○	○		
3月14日(土) 9:00～11:00 社協3F大会議室 ○BCP(業務継続計画)とは＜新型コロナ・自然災害＞(模擬訓練)(担当 松田)	○	○		

7月12日(土)11:00～12:00(身体拘束適正化・高齢・障害者虐待防止、感染症まん延防止検討委員会)
 12月13日(土)11:00～12:00(身体拘束適正化・高齢・障害者虐待防止、感染症まん延防止検討委員会)
 講師都合により順番が変動する可能性があります。

2 介護サービス状況（介護保険・障害福祉サービス・受託事業・制度外支援）

令和7年度実績

		合計	前年度比
介護保険適用	居宅サービスケアプラン作成(人)	677	112%
	介護予防ケアプラン作成(人)	4	48%
	指定訪問介護(人)	196	111%
	指定訪問入浴(人)	89	118%
	件数合計	966	110%
	ヘルパー実働(時間)	879.00	92%
	身体介護 生活援助 計	596.73 1,475.73	122% 105%
総合事業	入浴スタッフ稼働回数	487	126%
	実施 キャンセル	44	61%
	総合事業ケアプラン作成(人)	21	147%
	訪問型サービス国基準(人)	112	125%
	件数合計	133	130%
	ヘルパー実働(時間)	530.25	115%
	訪問型(国) 計	530.25	115%

	合計	前年比
受託事業	対象者数	10 20 50%
	訪問修了者	10 20 50%
	こんにちは赤ちゃん	

	合計	前年比
制度外事業	対象者数 延べ人数	41 25 164%
	時間	36.5 23.5 155%
	ほっとサポート	
※ 制度対象外支援 ※ 1時間3,500円(生保世帯は1,700円)		

令和7年1月から新規事業

	合計	前年比
総合事業	対象者数 延べ人数	24 9 -
	回数	100 48 -
	訪問型サービスD事業	

				合計	前年度比
居宅介護	対象者 (人)	障 害 者	208	101%	
		知 的 障 害 者	45	98%	
		障 害 児	18	100%	
		計	271	100%	
		身体介護 (時間)	障 害 者	1,403	88%
			知 的 障 害 者	422	89%
			障 害 児	195.00	102%
			計	2,020.00	90%
		家事援助 (時間)	障 害 者	203.50	138%
			知 的 障 害 者	2.00	34%
			障 害 児	-	
			計	205.50	89%
	合 計	2,225.50	90%		
	重度訪問介護	対象者(人)	身体障害者	12.00	300%
		時 間	身体障害者	172.00	315%
	行動支援	対象者 (人)	障 害 者	-	
			知 的 障 害 者	9.00	100%
			障 害 児	-	
			計	9	100%
		時 間	障 害 者	-	
			知 的 障 害 者	91	93%
			障 害 児	-	
			計	91.00	93%
	同行支援	対象者(人)	視 覚 障 害 者	18.00	91%
		時 間	視 覚 障 害 者	147.00	93%
	地域生活支援事業	対象者 (人)	障 害 者	12	142%
			知 的 障 害 者	59.00	177%
障 害 児			-	32%	
計			71	113%	
移動身体あり (時間)		障 害 者	123	105%	
		知 的 障 害 者	273	227%	
		障 害 児	-	51%	
		計	395.00	131%	
移動身体なし (時間)		障 害 者	-		
		知 的 障 害 者	22.00	285%	
		障 害 児	-		
		計	22.00	285%	
合 計		417.00	140%		
入浴事業対象者(人)		12.00	92%		
障害者(回)		87.00	99%		
計	83	109%			
障害福祉対象者計			393	103%	
サービス利用者 計			1,492	109%	
ヘルパー総稼働時間数			5,050	101%	
入浴事業稼働回数			574	121%	

34. 社会福祉援助技術現場実習受け入れ

法人運営費

将来の福祉従事者を育成する一環として、各学校からの実習生の受け入れを行なっている。実習内容は、社会福祉協議会の事業全般にはじまり、介護サービス、コミュニティワーカーの地域福祉活動の現場実習等、様々なカリキュラムを組んでいる。

令和7年度実績

◇実習生受け入れ状況

実 習 期 間	大 学 名	人数
5月12日～6月12日	F・Cフチガミ医療福祉専門学校	1
8月12日～9月12日	筑紫女学園大学	2
8月12日～9月16日	福岡県立大学	1
22月10日～2月20日5日	F・Cフチガミ医療福祉専門学校	1
2月10日～2月20日	筑紫女学園大学	2

35. 職員の資格（取得）状況

資格等名	社会福祉士	精神保健福祉士	公認心理師	社会福祉主事	社会保険労務士	ファイナンシャル・プランニング技能士	ボランティアコーディネーション		社協会計実務通信講座	簿記3級以上	介護支援専門員	主任介護支援専門員	看護師	介護福祉士	介護職員初任者研修	ガイドヘルパー	行動援護	強度行動援護	同行援護	精神障がい者ヘルパー	難病ヘルパー	喀痰吸引（第3号）
							3級	2級														
総数	9	1	1	2	1	1	1	3	1	11	6	2	3	12	2	9	3	3	6	3	4	1

資格等名	訪問型生活支援担い手	認知症キャラバンメイト	バリデーション	社会福祉士実習指導者	社会福祉会成年後見人養成研修	市民後見人養成研修	福祉住環境コーディネーター	医療事務	応急手当普及員	防災士	防火管理者	保育士	調理師	食品衛生責任者	図書館司書	第二種衛生管理者	大型一種運転免許	一般旅行業務取扱主任者	職業訓練指導員	二級自動車整備士	自動車検査員
総数	1	2	1	6	1	4	2	1	4	3	2	1	3	2	2	1	1	1	1	1	1

36. 職員内部研修

法人運営費

令和7年度実績

① 接遇研修

開催日	令和7年7月12日(土) 9:00～11:00
開催場所	大野城市総合福祉センター
参加者	職員 33名
研修内容	テーマ 「接遇」 1. 接遇とは自他尊重 2. まず、自分を尊ぶ！ 3. チームワークの活性化 講師 金生塾 金生 郁子 先生

② 人権研修

開催日	令和7年12月13日(土) 9:00～11:00
開催場所	まどかぴあ306会議室
参加者	職員 37名
研修内容	君が拓いた道 ～いつもいっしょがあたりまえ～ (ひょうたん島 DVD) グループワーク

37. 事業継続計画

近年頻発しておこっている自然災害や感染症蔓延の状況においても、重要な業務が継続出来るように方策などを計画した事業継続計画(BCP)について、介護事業とあわせ法人としての事業継続計画(BCP)を作成している。必要に応じ、見直していく。



♥ 赤い羽根共同募金運動



社会福祉法人福岡県共同募金会
大野城市支会

令和7年度実績

多くの方々にご協力頂いた共同募金運動は、地域の福祉活動費や福祉団体への助成、社会福祉協議会が行なう様々な福祉事業に活かされている。

- 1 赤い羽根共同募金フォトコンテスト Vol.4
テーマ：「赤い羽根 誰かの心に灯がともる～ラブ&ピース～」

内 容： みんなのあたたかな“たすけあいの心”を広げ、福祉への関心と理解を深めることを目的にフォトコンテストを実施した。厳正な審査の結果、最優秀賞1作品、優秀賞2作品、佳作6作品が入選となった。最優秀賞の作品はリーフレットの表紙にするなど、共同募金の啓発をする際に活用した。



【最優秀賞】

尾花 里佳さん

★作品タイトル 「ぼくはお兄ちゃん」

★作品へのコメント

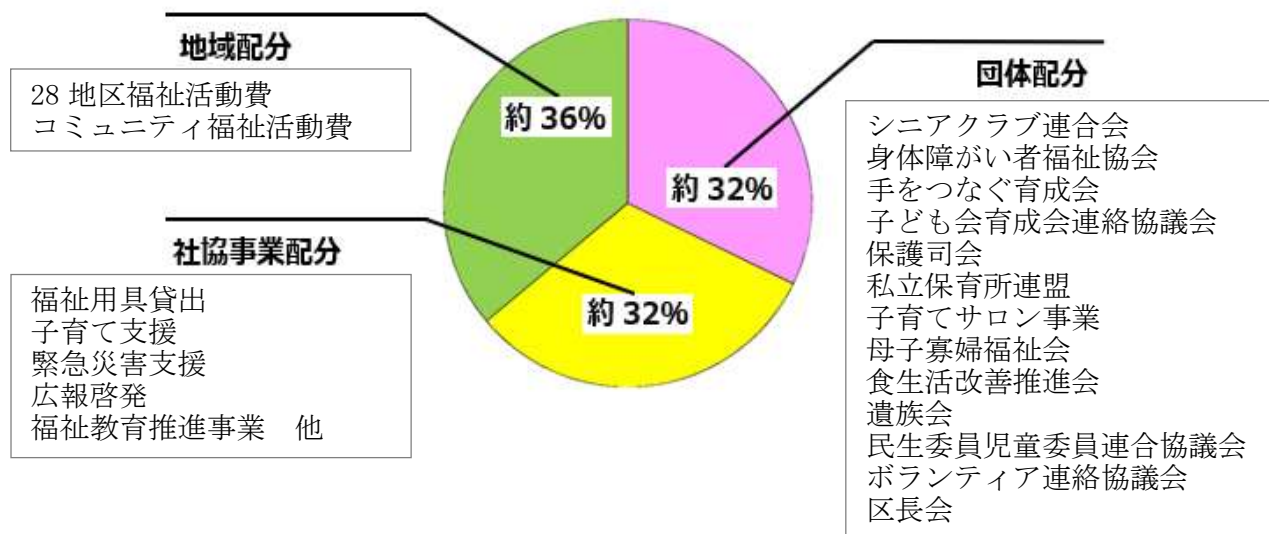
昨年長女を出産し、息子が大事に抱っこしてくれた姿がとても愛おしくて写真を撮りました

2 目安額・実績額

(単位：円)

	令和7年度		令和6年度	
	目安額	実績額	目安額	実績額
戸別募金	13,837,527	13,361,142	13,839,000	13,700,522
企業募金	2,212,694	2,080,701	2,280,000	2,190,784
街頭募金	273,323	291,722	308,000	270,617
職域団体募金	582,876	718,916	696,000	577,105
バッジ等募金	481,738	478,956	516,000	476,968
個人募金	296,744	1,249,804	281,000	293,806
イベント募金	109,890	82,495	95,000	108,802
自販機売上募金	903,158	818,117	970,000	894,216
募金箱設置協力	359,521	293,495	270,000	355,964
寄付つき商品による募金	41,489	12,155	63,000	41,078
合 計	19,098,960	19,387,503	19,318,000	18,909,862

配分実績



3 寄付つき商品

「寄付つき商品」は、企業の販売活動と社会貢献を結びつけ、売上の一部を地域福祉に役立てる取り組み。令和7年度は、㈱イレイト工房(春日市)の自然素材を使った焼き菓자에着目し、寄付つき商品の提案を行なったところ、賛同いただき新たに商品の登録いただいた。現在3企業より、登録をいただき、総合福祉センターの自動販売機を中心に販売している。

株式会社イレイト寄付つき商品覚書調印式

期 日 : 令和8年3月9日

場 所 : 大野城市総合福祉センター



商 品 : ラスク

協力企業 : まどかゆいぱる (大野城市上大利)

募 金 額 : 3,800 円

商 品 : クッキー

協力企業 : ファン工房 ほゝえみ (大野城市若草)

募 金 額 : 8,355 円

4 支会運営委員会開催状況 (運営委員総数 10名)

開催年月日			議 題		出席者
令和7年	8月20日	第1回	議事1 議事2	令和6年度福岡県共同募金会大野城市支会事業報告について 令和6年度福岡県共同募金会大野城市支会資金収支決算報告および監査報告について	8名
令和8年	3月5日	第2回	議案1	福岡県共同募金会大野城市支会共同募金配分検討委員会設置要綱改正について	9名
		第3回	議案1	令和8年度福岡県共同募金会大野城市支会事業計画(案)について	
			議案2	令和8年度福岡県共同募金会大野城市支会資金収支予算(案)について	

5 配分検討委員会開催状況 (配分検討委員総数 12名)

開催年月日			議 題		出席者
令和8年	3月5日	第1回	議案1 議案2	委員長・副委員長の互選について 令和8年度共同募金配分について 赤い羽根ふくし活動応援事業について	11名

福岡県共同募金会大野城市支会運営委員会

任期 自 令和4年8月1日
至 令和8年7月31日

1.運営委員

No	氏 名	推薦母体
1	支会長 楠林 義治	大野城市社会福祉協議会
2	副支会長 藤井 春三郎	大野城市区長会
3	副支会長 吉田 洋	大野城市商工会
4	清水 雅之	筑紫農業協同組合
5	大丸 千恵子	大野城市食生活改善推進会
6	妹尾 洋子	大野城市民生委員児童委員連合協議会
7	添島 浩	市民公募
8	瀬戸 克也	募金協力企業
9	池邊 幸子	男女参画団体
10	安武 博樹	大野城市

2.監事

1	清水 雅之	筑紫農業協同組合
---	-------	----------

福岡県共同募金会大野城市支会
共同募金配分検討委員会委員名簿

任期 自 令和8年3月5日
至 令和8年7月31日

	氏 名	推薦母体
1	支会運営委員 楠林 義治	大野城市社会福祉協議会
2	支会運営委員 藤井 春三郎	大野城市区長会
3	支会運営委員 吉田 洋	大野城市商工会
4	支会運営委員 清水 雅之	筑紫農業協同組合
5	支会運営委員 大丸 千恵子	大野城市食生活改善推進会
6	支会運営委員 妹尾 洋子	大野城市民生委員児童委員連合協議会
7	支会運営委員 添島 浩	市民公募
8	支会運営委員 瀬戸 克也	募金協力企業
9	支会運営委員 池邊 幸子	男女参画団体
10	支会運営委員 安武 博樹	大野城市
11	社協監事 原 一郎	大野城市商工会
12	社協監事 佐藤 義廣	識見を有する者

6 被災地支援義援金

市民の皆さまからお預かりした多額の義援金は、被災地に設置された義援金配分委員会を通じて被災者へ分配される予定である。

令和6年能登半島地震災害義援金 令和6年1月5日（金）から令和9年3月31日（水）	202,085 円
大船渡市赤崎町林野火災義援金 令和7年3月6日（木）から令和7年6月30日（月）	1,465 円
トカラ列島近海を震源とする地震災害義援金 令和7年7月15日（火）から令和7年12月26日（金）	74,709 円
令和7年台風8号に伴う災害義援金（沖縄県） 令和7年8月4日（月）から令和7年12月26日（金）	1,525 円
令和7年8月豪雨義援金（熊本県） 令和7年8月13日（水）から令和7年10月31日（金）	576 円
令和7年8月豪雨災害義援金（鹿児島県） 令和7年8月19日（火）から令和7年12月26日（金）	6,314 円
令和7年8月大雨災害義援金 令和7年8月29日（金）から令和7年10月31日（金）	1,515 円
令和7年台風第12号災害義援金（鹿児島県） 令和7年9月9日（火）から令和7年12月26日（金）	2,038 円
令和7年台風第15号災害静岡県義援金 令和7年9月9日（火）から令和7年12月8日（月）	1,274 円
令和7年大分市佐賀関大規模火災義援金 令和7年11月21日（金）から令和7年12月19日（金）	68,421 円

令和 7（2025）年度事業計画

★基本方針★

人口減少や少子高齢化が進む中、核家族化や単身世帯の増加など、つながりの希薄化を背景に孤立・孤独の問題など、地域における福祉課題が複雑・多様化しています。特に、複合的な課題を抱えながらも、制度の狭間で支援を必要としている人たちを支える取り組みの展開が求められています。

また、団塊の世代全員が後期高齢者となり、高齢者の人口がピークを迎える 2025 年は、医療や介護を必要とする人がますます増加し、そうした人たちを支える体制をどのように拡充していくかが大きな課題となっています。

大野城市社会福祉協議会では、第 1 期地域福祉活動計画（令和 6 年度～令和 11 年度）において引き続き 7 つの重点事業に取り組みます。行政とのパートナーシップを進めつつ、あらゆる困りごとの相談を受け止める相談体制の充実を図り、アウトリーチをおこないながら地域課題の把握をおこないます。あわせて、地域の支え合いを強化するため、「向こう三軒両隣」の輪を地域に広め、地域で見守りが必要な方をサポートしている福祉関係者と連携を図りながら生活に困っている人や地域の困りごとの課題解決を目指し、人と人、人と資源が世代や分野を超えてつながる「地域共生社会」を推進していきます。また、経営改善を目指し、健全な法人運営に努め、赤い羽根共同募金をはじめとした地域福祉活動のための財源確保をおこなっていきます。さらに、令和 7 年度は総合福祉センターの大規模な内装改修工事をおこない、市民の方々が利用しやすいセンターを目指します。

◆重点方針◆

◇総務企画課◇

＜健全な法人運営＞

自主的で持続可能な組織を目指し、事業の効率的な経営及び財政の安定化を図るため、常に業務の効率化を語り、予算管理を適切におこなう。

＜衛生管理体制の推進＞

定期的に衛生委員会を開催し、職場環境の改善並びに職員の健康の保持増進に努める。

＜総合福祉センターの利活用＞

安全安心かつ快適に総合福祉センターを利用することができるように、内装改修工事をおこなう。

＜法人後見事業＞

個人の尊厳を第一に考え、適切な財産管理、身上保護等をおこない、被後見人等の権利を擁護していく。

◇地域課◇

《第 1 期大野城市地域福祉活動計画》

第 1 期大野城市地域福祉活動計画について、社協内の各課をまたぎ職員一丸となって取り組み、行政をはじめとする関係機関との連携をおこないながら、地域福祉活動の推進をしていく。

《区長との懇談会》

コミュニティごとに区長と社協の懇談会をとおして、地域のつながりを持ち続けて行く意義を共有し、“わがまち大野城市の地域共生社会”をめざして、ともに地域福祉を推進することを目的に開催する。

《福祉教育の推進》

未来を担う子どもたちが福祉に関心を持ち、理解を広げるために、当事者や住民、地域の関係者との多様なネットワークを活かし、地域福祉推進の専門性(コミュニティソーシャルワーク)を発揮したボランティアコーディネートをおこないながら学校における福祉教育を推進し、“ふくしの種まき”に努める。

《赤い羽根共同募金運動の推進》

“自分の町を良くするしくみ。”である赤い羽根共同募金運動の推進をとおして、「支え合い」、「助け合い」の大切さを啓発し、地域福祉活動のための財源確保を強化していく。

◇居宅介護サービス課◇

《経営の改善》

業務の効率化による支出の見直し及びサービス利用者増加のために関係機関への周知の徹底をおこない、介護サービス収支改善を目指していく。

《地域と共に介護を考える》

在宅生活を希望される地域の方が安心して生活できるよう、法令遵守に則り多職種連携を図り、制度外になるであろう困りごとは社協内で共有し、地域力や社会資源を活かしながら地域共生社会を目指した支援を行う。

★重点事業★

大野城市地域福祉活動計画の重点事業の推進

●大野城市地域福祉活動計画に掲げた 7 つの重点事業の取り組みを、総務企画課、地域課、居宅介護サービス課が連携を図りながら進めていく。

【①食の確保隊】

支援が届いていない生活困窮者の方へ、地域の有益と思われる情報を発信すると同時に訪問介護で培った専門的アプローチを活かし支援につなげていく。

《令和 7 年度実行計画》

●ホームヘルパーの視点でニーズ・課題の把握をする

【②ふだんの暮らしのアシストセンター】

利用しやすい相談窓口を目標として、子どもから高齢者にいたる全ての世代の困りごとに対応できるワンストップの相談窓口を目指し、まずは相談を受け止め、必要に応じ適切な関係機関へとつなぎ、地域住民の不安や悩み・困りごとの軽減を図っていく。

《令和 7 年度実行計画》

- 相談窓口機能の拡充をおこなう(夜間・休日相談窓口の開設)

【③社会福祉法人と地域とのつながり】

社会福祉法人間の連携強化を図り、社会福祉法人と地域が協働して地域課題の解決を目指し、福祉のまちづくりに取り組むための環境を整備していく。

《令和 7 年度実行計画》

- 地域課題を地域で福祉活動する住民の方々と共有する仕組みづくりをおこなう
- 大野城市社会福祉法人連絡会との連携・協働するための推進体制を整備する(役員交代任期 2 年)

【④地域福祉へのいざない事業】

『向こう三軒両隣～地域で互いに助け合う優しい楽しい地域社会づくり～』を目標に、住民が身近な地域活動に主体的に参加し、相互に交流しながら地域の福祉課題に目を向け話し合いや学び合う場づくりを強化する。

《令和 7 年度実行計画》

- 公式 LINE・・・ともだち登録の案内と情報発信を引き続きおこなう
- ボランティア・市民活動フロント事業との連携・・・ボランティアのコーディネートをおこなう

【⑤地域における外出手段を充実させるための事業】

地域における高齢者等の外出手段を確保し、住み慣れたまちで安心安全の豊かな生活につなげていく。

《令和 7 年度実行計画》

- 障がいのある方のリフトカー・ハンディキャブの利用促進を図る(防災・障がい福祉担当課と連携)
- 「高齢者の移動・外出支援の仕組みと事例」を学ぶ研修を実施する(2 回目)

⑥大野城市ボランティア・市民活動フロント事業

住民(企業)の“ボランティアをやってみたい・やりたい”思いを受け止め、活動情報の提供をおこなっていく。また、各関係機関との情報共有の場をつくっていく。

《令和 7 年度実行計画》

- ボランティア登録システムの施行、活用研究をおこなう
- 地域、活動団体、NPO 等関係機関との連絡会を実施する
- ボランティアコーディネーション力検定 3 級を開催する

⑦権利擁護事業に関する取組強化と利用促進

行政と連携した権利擁護に関する制度や相談窓口の周知をおこない、行政との連携強化、権利擁護における市民参加の拡充をおこなっていく。

《令和 7 年度実行計画》

- 法人後見の現状把握と受任体制を整備する